

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	3・4	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③重要な項目に関しては、授業内で学生同士で議論をさせ答えを導き出せるように指導した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は89点、再試対象者は0名であった。標準偏差値はSは4名、Aは0名、Bは2名、Cは0名、Dは0名であった。高得点者が全体の約8割強を占めた。授業で取り上げた環境問題や国際関係等に高い関心を示す学生が居る一方、全く無関心な学生もいた。受講動機においても「関心のある内容である」と回答した学生がいる一方、「単位取得の為」に受講した学生も多くいた。観光文化学科における学生の国際情勢に関する関心の高さは必須であるため、興味が持てるような内容や指導の工夫が必要であったと思われる。しかし、DPにおいて「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね高い評価を示した学生が多かった。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会であると捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、地道な指導を行うことが必要であると確認した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性：観光文化学科のCPに明記されているように「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす」「学びと現代社会・関係諸領域との関係を理解できるようにする」目的として、本科目は目的になかった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP行動目標からみでの内容的妥当性：授業内容から学生には現代社会の情報収集が要求され、DPの到達自己評価は平均値を全て上回ってはいたが、数名の学生は低い評価をしていた。これは、クラスの約4割弱の学生がシラバスを参考にしていないことから判断すると、授業の主な目的や内容についての知識が無く受講したために、学生各人に興味をばらつきが生じた可能性があると考えられる。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記していたので、図書館利用の学生が前年を上回る結果となった。またDPの「職業倫理」「職業選択の参考」では概ね平均以上の評価を示す学生が多く、観光文化学科の学生の学習ニーズにも適った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は良好で、大変真面目に学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価：全項目に関して多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価：授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学修のための情報利用、図書館利用：受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が皆無であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多い中、本科目は受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生が多かった。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、メディアからの情報収集や図書館利用の強化を目標の一つに掲げたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習D	3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC L&amp;R TEST (以下、TOEICと略記)に特化した演習科目であることを考慮し、実際のTOEICテストと同じ構成内容で、またテキスト中の全ての音声が無料でインターネットからダウンロードして利用できるものを選びました。本テキスト巻末にBridge Practiceの自習用の問題が収められているので、受講生が授業時間外に取り組んでもらう一種の「持ち帰りテスト」として利用するために、別途、専用の解答用紙を作成し、また各自の得点の推移が把握できるように専用の得点記録表や、さらに、音声のスク립ト(読み上げられている英文の活字化)も準備して、逐次、配布し、予習復習の際に活用してもらえるように十分配慮しました。授業回数の限りもあり、テキストは基礎的な内容のユニットを最優先し、一部を自習にしましたが、自習してもらったユニットは、正解だけでなく、正解を得るための手がかりや着眼点などをヒントとして書き加え、さらに音声部分はスク립トと日本語訳を配布する準備をして授業に臨みました。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>受講生の中、特に4年生は2,3名を除いて欠席がきわめて多く、提出期限を過ぎてからの提出など小テスト(Bridge Practiceを小テストに充当)や各課題の評価平均値が取りにくい状況でしたが、最終的には課題を全員が提出したこと、シラバスに明記の通り、最終成績評価の70パーセントを占める学期末試験で、100点満点で平均点が75点前後になるようにレベル調整した試験結果の平均点がほぼ75点であったこと、授業中のリスニングや小テスト(Bridge Practice)の平均が、出席者や提出者だけに限定すれば60～70%の成績であったことを鑑みて「やや達成された」と評価しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは、TOEICテストに特化し、TOEICの得点力の向上を最終目標とする授業として、十分に妥当であると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業を進める上で、受講生の英語基礎学力に個人差があることは実は問題ではなく、むしろ、授業に対する熱意や意欲の面に個人差が大きいことを問題にすべきではないかと思われました。授業担当者としても、まずこの点を改善する方策を求めています。</p> <p>今回の受講生29名の内訳は、4年生が8名、3年生が21名でしたが、就職活動が避けられないと言え、4年生は2,3名を除いてきわめて欠席が多く、クラス全体の授業進行が難しくなるだけでなく、授業中のリスニングや小テスト、また提出してもらった課題も全員が足並みそろわず、全員均等に学習できない困難がありました。今後、授業担当者としてこのような点を少しでも改善できないか、方策を検討しています。</p> <p>なお、11回目の授業中にTOEIC Testをそのまま60分で実施できるサイズに圧縮した模擬テストを実施し、受講生各自が現時点での得点力を客観的に測る機会にしてもらいましたが、これは多くの受講生にとり、学習意識を高める機会になったと思われました。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目のような語学の演習科目は、授業そのものが、受講生と教員のコラボレーションであり、受講生と教員のどちらか一方だけの改善工夫だけでは進捗しないことは、今更言うまでもありませんが、両者共に授業への意欲を一層高める方向への改善策を模索しているところで</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
旅行産業論	3・4	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は専門教育科目の観光関連科目の一つであり、旧カリキュラムに配置されている。学生アンケート中の受講動機の項目においては「関心がある」と回答した学生が約7割に及ぶことから、この授業に対する期待が窺える。本授業においては講義内容自体にとりわけ重点を置き、授業を実施した。具体的には、インバウンドに関心が集まる昨今、日本国内のインバウンドについては比較的理解している学生が多いと言えるが、一方でこのインバウンド客を送り出す相手国の旅行業界や航空業界の実情やトピックスについてはほとんど知らない学生が多い。そこで、本授業においては来日するインバウンド客の送り出し国（主にアジア諸国）の観光業界全般に関する実情について学ぶ機会を設けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DPの平均値が4.0～4.3をマークしていること、また授業の質の評価においても、(1) テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった、(2) 期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった、については平均点が4.3、(3) 説明は理解しやすいものであった、については平均点が4.4、(4) 授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、については平均点が4.1、(5) 口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目については平均点が4.0であったことが根拠として挙げられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目はDP、CPおよびカリキュラムマップにおいて専門教育科目に位置付けられており、将来、観光業界に携わる人材を送り出す上で必要不可欠な知識を学ぶ機会を設けているため、内容的妥当性があると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本授業においては、アジア諸国（韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピン）における観光業界の最新トピックスを中心に講義をおこなった。しかし、今後はアジア諸国のみならずヨーロッパ、アメリカにも視野を広げて、来日するインバウンド客の送り出し国の実情についてその全体像を浮き彫りにしたいと考えている。また、授業に関して図書館を利用していない学生が多く見受けられるため、図書館で調べて学習するような工夫を凝らしたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本授業は3. で記述したように学生の授業に対する期待が大きい科目の一つである。したがって、今後の授業においてはこの点を念頭に学習の質の向上へ向けさらに工夫を凝らしたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジア観光文化地理	3・4	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 受講動機をみると「単位数を確保する」58.3%、「関心のある内容である」62.5%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は83.4点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、意欲関心に関する問題は100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、10%、17%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、行動目標からみでの内容的妥当性

成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。

②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「アジア観光文化地理」であるが、「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、評価が良かった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られている」の平均が4.2である。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「海外研修」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化地理」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。また、学生の知識理解、意欲関心を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間をもっと増やすようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級中国語	3・4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門基幹科目にあたる上級中国語は観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。上級中国語の能力の養成に重点を置く。具体的には中国語の会話、基本的文法を学習した上に基礎的な理解能力、表現能力等の総合能力の養成を目指した科目である。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的なレベルは3名しかいなかった。学習による授業評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均3、0と低かったが、これは教科書がやや難しいことが反映されていたことである。次年度に教科書選定の見直しとコミュニケーションに力を入れる必要があると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、本科目は専門基幹科目であり、中国語通訳ガイド演習等の科目に繋がっている科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるから、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

授業の質評価においては、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなどのプレゼンテーションについては、学生が参加する機会が作られていた」の平均3, 8と低かった。「説明は理解しやすいものであった」の平均3, 6と低かったが、教科書がやや難しいことや、復習予習時間が想定より少なかったことが原因であると思われる。次年度に教科書の選定を見直した上で、学生に事前に予習、復習を徹底するように促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門基幹科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、表現力、総合応用の面では課題を残した。復習時間が少なかったため、復習課題の提示などで改善を図りたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エアライン英語	3・4	後期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>エアラインに関係のある英語を教えるには、その背景となる知識が必要となるため、そこに時間をかけて授業を進めた。学生の多くは、「海外旅行実務」の授業を受けた経験があるため、そこで学んだことと関連づけながら説明をすることで、学生の理解度アップをはかった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績で「不可」となった学生は、試験に欠席していた学生だけであった。授業中において、学生たちは、集中力を維持しながら授業に臨んでいた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、ツーリズムコースのうちの実学的な科目であり、内容は妥当であると思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生のコメントの中に、授業中に見せた映画が良かったというものがあった。エアラインの業務の中でも本学科の多くの学生が憧れる客室乗務員の職務内容が理解できるものを見せたのが功を奏したと思われる。次回はこの科目を担当しないが、先方で担当することがあれば、今回の試みを参考にしたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業時に工夫したことが教育効果を上げたようである。ただし、次回はこの科目を担当しないため、残念ながらこの試みを生かすことができない。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
多国籍企業論	3・4	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は旧カリキュラムにおける経営・経済科目の一つである。観光系企業への就職希望者が多い本学科であるが、学生アンケート中の受講動機では「関心がある」と回答した学生が約6割にも及んでいることから、授業は以下の2点を重点的に工夫して実施した。①毎回の授業においては講義ノートを作成、配付することで本科目に対する学生の理解の促進に役立てた。②適時、授業内レポートを課し、既習内容の定着を図った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DPの平均値が3.6～3.9をマークしていること。また、学生アンケート中の「授業の質」という項目において（1）テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった、については平均点が4.0、（2）期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった、（3）説明は理解しやすいものであった、については平均点が3.9、（4）授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、（5）口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目については平均点が3.7であったことが根拠として挙げられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本授業では各国における多国籍企業の成り立ちを概説し、その後具体的な多国籍企業をケーススタディとして随時取り上げて、その経営戦略や経営上の課題について詳しく説明をおこなった。このような授業の在り方については、本学科のDP,CP、カリキュラムマップの観点からは内容的妥当性があると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業アンケートの自由記述欄において、「レジュメが多い」との意見があった。今回の授業においては全授業日程において総ページ数58ページに及ぶレジュメを配付したが、他の授業においても同程度の枚数は配付している（全15回の授業において、毎回の配付枚数は約1枚の換算になる）。ただし、今後は不必要な記述は削除するなり、できるだけコンパクトに内容をまとめて学生に配付するようにしたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

上記3. の箇所を受講動機について触れたが、本科目に関心を寄せる学生は比較的多い。旧カリキュラムであるものの、このような学生の要望に応え、随時内容を最新のものに更新し、学生の学びがより高度に達成されるように努めたいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光社会学	3・4	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会学の知識を援用し、観光について考察していくものである。観光社会学における専用テキストを使用し、観光社会学の歴史、対象へのアプローチ方法、さまざまな現代的な観光の事象に対する解釈等について講義を行なった。この科目にしても難しいのは多数決ではなく、理想について学生にわかってもらうことである。ここに気を配り、全員で考えた。これにかかり、以下の工夫をした。</p> <p>①「社会学」という科目がないため、まずはこの点について多少の時間を使い、説明した。本科目の参考書は、安村克己・堀野正人・遠藤英樹・寺岡伸悟編著(2011)『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房である。レジュメも同参考書のつくり準じて用意し、予習として予め授業で進みそうなどころまで読んでもらうことで知識の定着を図った。</p> <p>②3回に渡って中間レポートを課した。内容は教科書で興味のあるトピックについて深めてもらうものである。受講者各自のレポート点の平均については30から90まで幅が生じた(満点100)。</p> <p>③期末試験は論述形式のものとし(持ち込み可)、一定の時間内で身につけた知識を活かして論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については70から90の間であった(満点100)。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は8名であり、学年としては3名が4年生、5名が3年生であった。このように、受講者数が少ない上、学年など受講者の属性のバランスもよく、学術的な内容の講義ではあったが、安定して授業が進んだ。</p> <p>授業評価アンケート(回答者5名)によると、図書館の利用について、2名が図書・雑誌の利用をしたが、CiNiiなど学術データベースの利用は0であった。また、インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった受講生は2名であった。</p> <p>出席状況について、まず皆勤者は0であった。ほか2回欠席が1名、4回欠席が4名、4回欠席1回早退が1名となった。なお、2名は欠席過多により、定期試験受験不適格者となった。単位は定期試験受験不適格者以外の6名全員に単位を付与することができたが、「秀」はおらず、「優」3名、「良」2名、「可」1名であった。欠席が全般的に目立ち、それもあり、「秀」には誰も届かなかったが、次点の「優」は3名が取得しており、レポートや期末試験を良好な成績で終えてくれたことが影響したと認められる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>すでに上記の4で示したように、学術に特化した内容ではあったが、科目の特性を理解してくれたため、授業の展開はスムーズであった。授業評価アンケートによると、「受講動機」（回答者4名）は「関心のある内容である」と「単位数を確保する」が各2名ずつであった。「到達度自己評価」（回答者5名）は10項目あるが、3.2の1項目を除き、すべて3.6から3.8の範囲に収まっている（5点満点）。3.8は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象（自然、人、歴史、社会など）を理解する視点や考え方を得ることができた」の2項目であり、やはり学術系の項目が相対的に高い結果となった。3.2であったのは「職業選択の参考になった」であった。実務科目ではないため、やむをえない。</p> <p>このように、全般的に学生の理解がある上での授業であったため、授業を行ないやすかった。なお、授業アンケートの自由記述はなかった。今後とも誰にでも理解してもらえるよう、わかりやすく説明したい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学術的な内容であり、（実務科目を多く履修するなど）これまであまりそうした内容に触れてこなかった受講生には難しかったかもしれない。しかし、授業の運営自体は上述のようにスムーズに行なえたと考える。</p> <p>授業評価アンケートの「学習量の評価」（回答者5名）によると、予習時間は0が3名であったものの、1時間半～3時間も1名いた。復習時間は0が4名であった。少しでも予習・復習（特に復習）に取り組んでもらいたかったが、大半はそうでないことになってしまったため、自発的に行なってもらえるよう、内容を噛み砕いておもしろさがよく伝わるよう努力したい。ノートは5名全員が取ってくれ、高い評価ができる。授業以外の課題に取り組んだとした者は1名であり、この点で授業以外のことにも目を向けてもらえるようトピック等を工夫するなどしたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」（回答者5名）の結果が物語っているであろう。5項目あるが、ややポイントにバラツキが見られる。（満点5の中で最高点の）4.6であったのは、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。フィードバックをしっかりと行なっていることが評価された。最低点(3.8)であったのは「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の2項目である。これらも科目担当者としては充分に行なったと認識しているが、受講生は相対的にそう受け取っていないため、まずはより4点に近づけるよう、意識したい。</p> <p>なお、受講生数が少なく、また、その中で2名の定期試験受験不適格者が出たことは、同時間帯にほかに受講したい・受講しなければならない科目があったなどの事情を加味しても、留意すべきであり、もう少し多くの学生に（最終講まで）受講してもらえるよう工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ欧米文化	3・4	後期	選択	はい	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「欧米文化」という壮大なテーマを15回の授業で伝えるには無理があることは最初から分かっていたため、「欧米」をアメリカに絞り、さらに文化についても学生にとって身近なものや大切なものに絞って取り上げた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった			やや達成されなかった		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績が80点以上の学生が15名で、60点未満の学生が12名であった。自分が担当している他の科目では考えられないくらいに平均点が低く、授業を通して学生が十分に理解できていないようであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>文化に関する数少ない科目の一つであり、さらに学科の名前の一部となっていることもあり、現在の位置づけは妥当であると思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>学生の自由記述の中に語句の解説を板書してほしいというものがあった。自分としては、学生が当然に理解しているものと思っているような語句であっても、再確認という意味でも、少しでも専門的な語句を使用する場合には、板書をするようにしたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体を通して、授業での教育効果は低かった。長い間にわたり担当してきた科目であり、これまでと同じような方法で授業を進めてきたのが裏目に出たようである。学生の理解度を途中で把握しながら、それに合わせて授業を進めるようにしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心II	3・4	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This continuation of the first term course focused on providing students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (passive participation 15%, active participation 47%, homework 13%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 70s and 80s.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Student interest was evident, and the skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year include more frequent homework assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I continue to feel that a class limit of 30 students would allow for a more productive student/teacher ratio, and more focused classroom energy.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
旅行商品企画論	3・4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「関心のある内容である」50.0%、「単位数を確保する」42.9%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の9回目、10回目にグループごとにフィールドワークを行い、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85.5点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては92.9%であった。目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、21.4%で、インターネットの利用に関しては、35.7%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「旅行商品企画論」となっており、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成を勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が85.7%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が85.7%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が85.7%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「旅行商品企画論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語通訳ガイド演習	3・4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門展開科目にあたる中国語通訳ガイド演習は、観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には中国語通訳ガイドの基本的技術を学習した上に、基礎的な理解能力、表現能力、翻訳技能の養成を目指した科目である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的なレベルに達したが、理想的なレベルに達したのは50%となった。学習者の到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることが出来た」は平均値3, 9やや低かった。学習による授業評価においては5項目平均値4, 4と高かったと示されていた。自発的学習や図書館の利用などにおいては少なかった。次年度改善を行いたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、マップ上の位置づけから見て、本科目は専門展開科目であり、中国語通訳案内士などの資格試験に対応する科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるから、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において5項目の平均4, 4と高かった。但し、自発的学習や図書館の利用が非常に低かった。次年度に向けては改善し、事前に復習、予習するよう促していきたい。学習者は自ら中国を訪れたり、中国への興味が湧いたと示されていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門展開にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成について概ね達成できたが、表現技術の面では課題を残した。じっくりと復習する時間が少なかったため、復習課題及び自発的な学習の提示などで改善を図りたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネスファイナンス	3・4	後期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は専門教育科目におけるマーケティング・経営・経済に関する科目の一つである。観光系への就職を希望する学生が多い本学科において、とりわけマーケティング、経営、経済科目に関心を示す学生は決して多いとは言えない。このことはアンケート項目における受講動機において「単位数を確保するため」と回答した学生が約6割に及んでいることから明らかである。しかし、本学科は観光系企業への就職希望者が最も多いものの、金融機関への就職希望者も比較的多いことから、本授業においては財務諸表とは何か、について詳しく、かつ丁寧に説明した上で、財務諸表の基本的な分析方法を習得できるように授業を工夫した。具体的には、実在する企業の財務諸表（主にP/L、B/S、C/F）を適時配付し、その分析を通じて企業の財政状態や経営の動向などを推察するなど授業をおこなった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生アンケート中の「授業の質」という項目において（1）テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった、については平均点が4.1と高く、（2）期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった、（3）説明は理解しやすいものであった、については平均点が4.0、（4）授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、（5）口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目については平均点が3.9であった。（4）、（5）の平均点については、上記（1）～（3）に比べてわずかながら低いものの、全体としての平均点は高いことから本科目における教育目標はかろうじてやや達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目はDP、CPおよびカリキュラムマップにおいて専門教育科目に位置付けられており、幅広い業界において必要不可欠なファイナンスの知識および財務諸表分析などのビジネス実務を学ぶ機会を設けているため、このような授業の在り方は妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業開始時において、学生にアンケートをとったところ、簿記の知識が全くない学生が比較的多かった。したがって、授業においてはそのような学生を対象に簿記の入門レベルの知識を適時織り交ぜながら講義をおこなっていったため、当初想定していた財務諸表分析のレベルまで到達してはいない。したがって、次回の授業計画時においては、まず最低限簿記の知識を習得してから授業を受けることが望ましい旨を伝えていくつもりである。具体的には1年次に開講される簿記入門の授業を履修していることが望ましいという旨をシラバスに掲載しようと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

4. で記述したとおり、本授業の教育目標は概ね達成されたと考えている。しかし、次回の授業計画時においては簿記入門の知識を必要とする旨をシラバスに記載し、今回に比べてより高度な財務諸表分析の方法を紹介し、説明したいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ブランド戦略論	3・4	後期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ブランド戦略論は、企業マーケティングの重要な要素であるが、本学科カリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されているが、初学者のため企業経営におけるマーケティングおよびブランド戦略の役割の理解に重点をおいている。また、ブランドへの興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用、理論的かつイメージ的に理解が進むような工夫をしている。学習準備性については、上述のように企業経営分野の初学学生にマーケティング、ブランドへの興味・理解を促進させるために新聞広告、CMなどの広告に慣れ親しむ事を学習準備として示している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>上記授業準備で述べた通り、初学者なため、あくまで「マーケティングにおけるブランドとは何か」への興味を促進することが大きな目的であるため、映像、ビジュアルなど多用しているが、アンケート内容から達成されたと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティング、ブランドの基礎知識としての経営学初学者のため精緻に評価できないが内容妥当性の面では達成できた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

外部講師授業の導入、グループワークの導入など授業の進め方については問題ないと考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量0が受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マルチメディアアーツリズム	3・4	後期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では「観光情報学」「地理情報学」の観点で、授業展開を行うものとし、これまで学んでいる旅行関連の科目を中心とし、ICTの活用法に興味を示し、さらには、グループで制作物を作成することにより、コミュニケーション能力の育成もできるように授業を組み立てた。また、アイデア発想法のひとつであるマンダラートを各個人の考えを伝える道具として利用し、LineWorksによるグループコミュニケーション方法、多言語対応に活用可能なPapagoやVoicetraといったアプリケーション利用方法などを授業に組み入れ、グループ課題に取り組んだ。また授業資料に関しては、LMSを利用した資料の提供、振り返りシート、課題提出を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない	どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>①昨年度と同様、SやAに相当する学生数は50%程度、BやCに相当する学生はそれぞれ25%程度となっている。これらの成績は前年度の学生の状況を鑑み、基準を設けたものであるが、授業内で提出できる課題の割合も多かったこと、グループ課題作成に必要な項目を主体とした演習であることを周知していたため、比較的課題の提出率はよかった。</p> <p>②成績と受講動機が紐づけできないための仮説となるが、単位修得だけを目的とする学生ほど欠席がちであり、PC操作が苦手な学生の多くは、各回の授業進行に追いつかない状況にあること、課題提出状況が芳しくない傾向にあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上からの内容的妥当性 これまでに学んだ観光関連科目、情報科目の両方を兼ね合わせたものであり、内容的には妥当である。</p> <p>②DP,行動目標からの内容の妥当性 意欲関心の面では、一般生活および観光関連で利用しているIT技術などに興味を持たせることができ、多くの学生が受講前よりもPC操作が習熟し、今後も持続的に取り組みたい意向も伺え、内容的には妥当である。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業進行は、毎回のリフレクション調査の結果に基づき、できるだけゆっくりと行ったため、殆どの学生は時間内に理解できたようである。</p> <p>②グループ課題に関しては、早めにグループ作りを行わせるようにしたこともあり、前年度に比べ時間的な余裕があったようである。</p> <p>③PCやインターネット環境として、実習室の有効活用がみられ、授業終了後も課題に取り組む学生が前年度よりも多かった感がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最終のグループ課題のでき具合に影響が出ることもあり課題を残した。また、PCのバージョンアップ（新規入れ替え）により、よりスムーズに進むことが期待されたが、提出課題の消化という最低ラインのみで、発展・応用する学生は数人であり、あまり多くなかった。より発展的に取り組む学生を如何に増やしていくのか、より興味深い例題などを紹介および実践する必要がある。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ホテル・ブライダル論	3・4	後期	選択	はい	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ホテルについては他の科目でも取り上げられることがあるため、授業では特にブライダルの方に重点を置いて説明をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>人数は少ないと言え、不可となった学生が4名いた。ホテルとブライダルのうち、ブライダルを取り上げている際に、学生の反応が悪かったように感じたため、おそらくそちらの方での理解度が低かったのではないかとと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>ホテルは観光関連であるが、ブライダルは必ずしもそうとは言えないため、この2つの項目を1つの科目に含めている「ホテル・ブライダル論」の内容を学生が理解するのは難しい面がある。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業中の説明不足という意見が2名の学生から出た。あまりに多くのことを伝えようとしたばかりに、情報過多になって説明が間に合わなかったと思われる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>受講生の成績を見る限りおおむね理解できたようである。次年度は担当者が変わるため、次の授業に今回の経験を生かすことはできない。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>数字が出てくると苦手意識を持つ学生が多いため、企業の財務分析などでは、なるべく数字を出さずにまず解説をするようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全受講生が80点以上であった。3年進学時に学力が低かった学生が複数名いるが、1年間の学びで大きく成長している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>2年次までの専門教育全体を総括するような科目であり、内容的には妥当であると思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>毎回の授業では、なるべくメリハリのあるものとするために、進め方を工夫しながら同じようにならないようにした。学生は退屈はしなかったようであるが、取り組むべき課題を把握できないこともあった。そのため、こちらが指示したものは違うレポートを提出することが時々見られた。次回は、課題が特殊な時には時間をかけて説明をしたいと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業の最後に課したレポートにおいて学生たちはこれまで学んだことをきっちりと生かし、かつそれ以上のものを加えてそれぞれのテーマを論じていた。そのまま卒業論文に使えるようなものも多く、完成度の高いものばかりであった。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生数10となっているが、1名は後期留学のため、この授業を1年間受けたのは、9名。授業評価の回答者数は5名。①演習研究科目の総仕上げである卒業研究で卒業論文を書くことを次年度に備えての授業となる。基礎的な文献を読むことができる力を養い、自主的に課題を見つけて、その解決方法を見出す取り組みができるように課題を出した。②受講動機は、「必修科目であること」が100%、「単位数を確保する」が20%であり。動機づけとしては外圧的な動機の方が大きい。③到達度自己評価には、(1)～(10)のどの項目でも、「④わりにそうだと思う」以上の選択は一人もいない。2.2から2.8の範囲内であり、到達度自己評価は非常に厳しいものである。それは、3. 授業の質評価(全項目が2.2から2.8の範囲内)に直結している。④授業は基本的には、基本的な文献を輪読することであり、学習準備ができやすいように設定した。担当ページのノート提出者が、輪読発表の司会も担当する者であり、学生の準備性が授業の成否を左右するという高い意識をもつように指導した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価を人数で示すと、A(3),B(6)である。授業評価の自由記述には1名あり、それは「もっと柔軟性のある考え方をしてほしいです。学生の意見をちゃんと聞いてほしい」である。学習量の評価では、「一回30分以上の準備をどのくらい行いましたか」に対して、回答者5人中4名が0回。「一回30分以上の復習をどのくらい行いましたか」に対して、5名(全員)が、0と答えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

演習研究科目の一つであり、1年前期の基礎演習Aから始まり、4年次の卒業研究までつながる科目群の一つである。次年度（卒業年度）の卒業論文制作につながる科目であり、基本的な研究の方法に一通り触れることを目標とした。DP、CP上の位置づけとしても妥当な置き所であり、適切な配置である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述には1名分があり、それは「もっと柔軟性のある考え方をしてほしいです。学生の意見をちゃんと聞いてほしい」である。重く受け止めたい。これは通年科目であり、年度途中にも学生からの授業運営についての意見が複数回出されている。直接担当者に出された場合と、他の教員経由で出された場合もある。それに対して、直接対応するという手順を踏んでいる。授業改善へオープンな議論ができるように心がけている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価には、(1)～(10)のどの項目でも、2.2から2.8の範囲内であり、非常に低い。これまでこの名称の授業を担当してきた中で、通用してきた授業の運営方法が目の前の学生に通用しなかったとのことであり、学生を日頃から見ることが必要であることを痛感している。学生の姿は毎年変わるものであり、それに対応できるようにしていく必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①専門演習Ⅱは4年生の卒論研究教育への円滑に行うための研究演習教育として位置づけに置かれている。まず視野の広げ、考える力、判断力、分析力の学習方法を身に付けてもらう。ゼミに所属して、専門的に学ぶ。「研究」「多読」「レポート作成」「文献の探し方」「発表」などにより実践的な力を身に付けることを目指す。②異文化、地域社会への関心及び貢献できるように、外国の総領事館や企業、放送局などの訪問を通して現在社会の動きを把握してもらう。③昨年度までと同様、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを実施した。学習者の関心事を再確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね90点以上として総合的に判断作成）に達したものは4名と限られていた。目標別に見ると知識理解、思考判断に関する問題は自己評価にあまり差がないことが示された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見る内容的妥当性について、本科目は専門演習科目である。卒業研究を繋ぐ要の位置にある。内容的に妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価においては「」授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」等の項目の平均が3, 7~3, 9とやや低かった。学校外への実践の時間が想定より少なかったことも反省点である。学生の意見として、ゼミでの課題活動を後期になって初めてして、学校または知識で知れなかった部分を見て学ぶことが出来、今以上にその活動をしていきたいと思いましたが。という担当教員への意見があった。これは次年度課外活動等が取り入れていきたい

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門演習IIは専門的知識の形成、考える力、判断力、分析力、実践力の養成に重点を置くが、概ね達成できたが、ゼミの担任として常に綿密に連絡し、指導をしっかりとる必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「必修科目である」90.0%「関心のある内容である」10.0%となっているが、他の項目は0%となっており、履修者が「専門演習Ⅱ」では、何を学ぶかについて、まだよく理解できていないことが分かる。シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。</p> <p>②最初のゼミにシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③月に1回程度、卒論の発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p> <p>④月に1回程度、就職の指導を行い、学生の就活に役立つスキルを伝授した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は92.2点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%、意欲関心に関する問題は100%、態度に関する問題は100%、技術表現に関しては、100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価に差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、1.0%で、インターネットの利用に関しては、1.0%となっている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門演習Ⅱ」であるが、「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が100%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が100%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、技能表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>マーケティング、広告宣伝、メディアの理解と課外活動体験を通してマーケティングマインドの醸成と4年次の卒業研究へのステップとして学生自身が計画を立案できる授業構成および就職活動準備指導に重点を置いた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質の項目については各項目について中央値以上の数値が認められるため達成されたと評価する。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質など項目について概ね中央値であるため内容的妥当性はあると評価する。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>前年度の課題であった就職活動指導とマーケティング理論の基本的理解、課外活動との時間的配分は事前にオリエンテーションを行なったため計画通りに遂行できた。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>科目達成状況としては概ね達成と評価するが、上記の通り、マーケティングの基本学習量の確保・向上と就職活動指導の計画の時間的配分が課題。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度は、難しいテーマを選んだ学生がいて、後でテーマを変更するということがあった。今年度はそのようなことがないように、時間を十分に掛けてテーマの検討をした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全学生が80点以上の成績であった。また、例年、卒業論文の提出締め切りぎりぎりになる学生がいるが、今年度は余裕を持って論文を完成していた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

卒業論文は、学科の専門科目の総仕上げとも言える科目であり、それを意識しての内容であり、妥当と思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

学生のコメントに、私が就職活動のアドバイスをしたことへの感謝の気持ちが書かれていた。私は、この科目の担当者であるだけでなくアドバイザーでもあるため、学生のキャリアについては、今後もアドバイスをしたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今回は、卒業論文のテーマを決めることに時間をかけたのが良かったので、次も同様としたい。例年、個別指導を中心としてきたが、それだと学生間でレベルの差がついてしまうこともあるため、今度は、共通指導の部分を充実させてみたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのは本学習の狙いである。従って、先行する研究の成果を収集する力、それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力、仮説を論文として展開する力などを養うことに置く。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生による授業評価においては、目標別に見ると、自分なりの目標を達成したことに関しては、全員が比較的に達した。知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来たことに関しては、理想的レベルに達した。卒論を書くには論理 t r 気に筋道立てて考え、自分の言葉で分かりやすく、口頭及び論文で述べる能力を習得できている理想的レベルに達していないが、標準的レベルに達している。今年度学科では卒論最優秀賞受賞できた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置付から見ての内容的妥当性 学科は卒論研究は四年集大成のいちにあり、必修である。学生の成績を収めていることから、内容には妥当であるとする。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 学生が積極的に課題を考え、問題を思考判断として、何を論述するかが確実把握できたことから成績は上昇したことも、内容的には妥当であったとする

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が5, 0となり、「口頭発表、文章等の学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均4, 5となった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均が5, 0と上がった。次年度に向けて、さらにしっかり確定しながら学生の質問を受け付け、答える機会を作り、学生に授業に参加するよう促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

卒業研究にあたる本学科の位置づけから、四年間の勉強の集大成の形成については、概ね達成できたが、この授業を履修する際にシラバスの活用などを図りたかったが、無視されていて、次年度しっかり確認してもらうことを促していきたい。また、毎回の狙いを具体的に示すこと。可能な限り卒業論文を独特に考慮し、意識的に提示するように改善していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「必修科目である」100%、他は0%となっており、履修者が「卒業研究」では、何を学ぶかについて、まだよく理解できていないことが分かる。シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。</p> <p>②最初のゼミにシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③月に1回程度、卒論の発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p> <p>④月に1回程度、就職の指導を行い、学生の就活に役立つスキルを伝授した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は93.6点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%、意欲関心に関する問題は100%、態度に関する問題は100%、技術表現に関しては100%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価に差がないことが示された。</p> <p>図書館、インターネットの利用に関しては、前者は50.6%で、後者は63.6%となっている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業研究」であるが、「活躍できる社会人」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われますが、教育方法をさらに検討する必要があると考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が100%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が100%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示してください。</p>	<p>「活躍できる社会人」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、技能表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。</p>
--------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生が各自で選択した卒業研究テーマについて資料収集し、それを自分なりの視点で分析できる能力要請に重点を置いた。各学生に2週に1回の研究進捗状況の発表を課した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生個々のレベル差があるのは当然であるが、アンケート結果によりDPはほぼ達成されたと評価する。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生個々のレベル差があるのは当然であるが、アンケート結果によりDPはほぼ達成されたと評価する。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価についてはやや達成されたとされるが、アンケートにおける学習量の評価、情報利用、図書館利用の低さは卒業研究自体の質に関わる重要な課題と考えられ、改善を要する。改善方策については、課題量の検討、研究の質的な向上を常に意識させる。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況はやや達成したと判断するが、上記で記述した学習量、情報利用等が課題である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、新約聖書の基礎であるイエス・キリストの生涯と教えや弟子の働きについて理解を深め、キリスト教が世界に広がった経緯について学ぶことを目的としている。新約聖書を土台とするキリスト教の行事についてグループ発表を行い互いに視野を広げ、最後には1年間のキリスト教の学びの集大成として建学の精神である「感恩奉仕」について個人が向き合い考えを深められるよう、毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形態での学びを工夫した。</p> <p>②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。チャペルでの体験的な学びを、総合的に把握することができるようになった。</p> <p>③後半で行うグループ発表の機会は、学生の関心にあわせて展開し、様々な角度からキリスト教について学びあう事ができた。</p> <p>④学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何を受け取ったのか把握できるようになった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(3.7)、知識理解に関しては(3.9)であった。到達度の自己評価の平均値は(3.6)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約80%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えます。また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言えます。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らが習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価についての平均値は(4.1)であった。チャペルポートフォリオを導入したことは、チャペル出席へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。 本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.1であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、2年次以降も学生が聖書を開いて日常生活に取り入れられるよう、仕組みを作りたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、チャペルポートフォリオを導入し、関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、個々人の内面の変化を洞察していく作業をおこなった。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に意識できるよう促すことが課題である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と文化	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムとして始めて開講された科目であり、キリスト教で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史について概観した後、聖書を土台とした芸術作品を鑑賞したり、文学作品を味わったりすることによって、学生自らの人生に語りかける聖書のメッセージについて考えることができた。今年度は少人数であったので、グループではなく、個人でキリスト教に関するテーマを自由に設定し、調査・発表を行い視野を広げていき、全員が各々の興味関心について発表しあうことができた。少人数であることを生かし、ひとりひとりの興味関心を大切に、ディスカッションも多く取り入れながら授業を展開した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.3であり、到達度自己評価の平均値は4.1であった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は100%であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、キリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。</li> <li>キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。</li> <li>チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。</li> </ol>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目はキリスト教を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表を行い教養を養うことができる、という行動目標については、今年度は少人数であったため個人での調査と発表を行った。発表においては、学生同士の積極的な意見交換が行われ、活発なグループディスカッションとなり、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.1であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度は少人数であったので、個々人の興味関心にあわせて研究テーマを設定することができた。また、教員と学生との関係も密にすることができ、一人ひとりについて把握しながら進めることができたことは大きな収穫であった。多角的な意見交換のためには、様々な学科の学生の受講があればよりよい授業となるであろう。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年生担当の必修科目であり、大学生としての学び・研究の進め方について修得するという内容で実施した。テキストには友原嘉彦編(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院を用い、輪読の上、議論を行なった。これにかかり、以下の工夫をした。</p> <p>①テキストを通して、問いの立て方や研究の進め方を確認する。</p> <p>②自国や自地域のみにも留まっていると、課題等が実際には顕在化していても、それらに気付かないことが往々としてある。これは観光の現場でもそうであり、この点から全員に用意してもらった上掲のテキストを基に、俯瞰的、相対的に考える作業を行なった。</p> <p>③全15講の期間中、3回レポートを課した。内容はいずれもテキストの内容を援用した形で、自身の興味関心のあるテーマに向き合ってもらったものである。3回のレポートの評価としては、「秀」14名、「優」13名、「良」2名、「不可」1名であった（ほか、欠席過多による定期試験受験不適格者が3名）。全体としては非常に良好であった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は33名であり、学年としては2年生1名、1年生32名であった。上述のように欠席過多による定期試験受験不適格者が3名出たが、出席していた者には全員に単位を付与することができた。</p> <p>授業評価アンケート（回答者27名）によると、図書館の利用について、図書・雑誌の利用をした者は5名、CiNiiなど学術データベースを利用した者は3名、インターネットを使用し、（一般的なサイトにより）検索などを行なった者は5名であった。これらの受講生は数字的に重なるのではないかと推察される。1割程度でもこうした情熱のある受講生がいることで、全体に影響し、総じて学び向き合うムードは良好なものになった。</p> <p>出席状況については皆勤が10名、1回遅刻が1名、1回欠席が10名と総じて良好であったが、上述のように欠席過多の者も3名出て、また、4回欠席も2名いた。しかし、受講生は総じて熱心に取り組んでくれ、その結果、定期試験受験不適格者を除く全員が単位を修得することができた。内訳は「秀」14名、「優」10名、「良」5名、「可」1名であった。「秀」が半数に迫るほど良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートによると、「受講動機」（回答者26名。複数回答可）は「必修科目である」が26名であった。ほか、「単位数を確保する」が2名、「GPAをあげる」が1名であった。誠実な評価をしており、努力は報われるので、そうした受講生にとっては確かに「GPAを上げやすい」と考える。</p> <p>「到達度自己評価」（回答者27名）は10項目あるが、すべて3.1から3.4の間であった（5点満点）。3.4であったのは、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」の3項目であり、学術性の高い項目である。3.1であったのは、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と「職業選択の参考になった」の2項目である。後者については確かに細かな職業について言及はしていない。クリエイティブな生き方を説いたが抽象的でわかりにくい者もいたかもしれない。前者は科目担当者としては注力したが、受講生数が33名な中、発言・表現の機会が少なかった者もいたかもしれない。</p> <p>なお、授業アンケートの自由記述では「学習量の評価（授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由）」という項目で「何をしていたかわからない」といった内容のものが2つあった。「クリエイティブ的視点」など抽象的なことから具体的なことへの接続がうまくいかなかった者も出たようである。また、「同名称のもう1つのクラスの方がよかった」という旨の記述も1つあった。相性は仕方ないが、受講生・科</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの「学習量の評価」（回答者27名）によると、予習・復習の時間とも、0が各18名であった。一方、どちらも30分は5名程度、1時間～1時間半は4名程度と、少なくとも計10名程度は予習復習に取り組んでくれた。これは成績の「秀」の14名に近い数値である。もう一歩踏み込んで予習復習を行なうことで「優」などから1つ上位の成績が収められたのではないかと考える。</p> <p>ノートについては取らなかった者が21名となった。必要事項はテキストに書いてあるが、付加的な説明もしたので、その場で理解してもらいながらも、取ってもらえればなおよかったであろう。授業の課題以外に学習に取り組んだとした者は僅か1名であった。しかし、授業内容だけでも豊富であったので、まずは上述のように予習復習を行なってもらえればよかったと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果を見よう。5項目あるが、どれも3.6か3.4であった。中央値はいずれも3（「まあまあそうだと思う」）であり、平凡な評価であった。授業担当者としては、たとえば、「説明は理解しやすいものであった」や「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目などはもう少し高く出てもよいのではないかと考えるが、それらも3.4（中央値3）であった。このように、受講生は「実際の優秀な成績」と「身についたという実感」が乖離していた。それは上述したように、抽象的な内容の議論の際、うまくイメージができていなかったことが背景としてあったのではないだろうか。しかし、その場でよくわからなくても、レポートなど考えをまとめたり、経験したりする中で、「あのときのあれは、こういうことか」とわかるときがあるのではないだろうか。実際にレポートの内容からすると、理解していた。「すぐ役立つ」という「派手なおもしろさ」はなかったであろうが、深層において知識や考え方が定着していたのではないかと考える。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初年次セミナーⅠに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である。2クラスに分かれており、基本となるシラバスの内容に沿ってそれぞれの担当教員の裁量で授業展開している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)、技能表現 (DP5) については、到達度自己評価により、やや達成が妥当と判断する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>アンケートの学習到達度自己評価では目的をやや達成しているため、DP、CPとの内容妥当性もやや評価できるとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>前年度課題であった学習量レベルが低さを課題提出等の工夫によりレベルアップを図ったがさらなる工夫必要と思われる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>初年次セミナーⅠに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。</p> <p>②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起するようにした。</p> <p>③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめ、実習期間全体の変容と自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量との関係が、数量的に理解できるように努めた。</p> <p>④生涯スポーツとして多数の人が選択する可能性の高い種目を置き、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポー</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①34名が受講し、最終的な成績の平均値は91点で、再試対象は0名で履修放棄1名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは31名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。7名(23%)が資格に必要な答え、関心有り17%と、目的は様々であった。最も多い理由は、単位の確保（70%）と答えていた。堅実な出席と、提出物のその無さからも、単位確保が伺われた。</p> <p>②アンケートに答えた32名中、目標到達ができたと答えた学生は32名で、非常に様々な学習効果をもたらしたと考える。（知識の取得31名、理解思考力アップ32名、課題解力獲得31名、判断力獲得32名、意欲向上30名、技術獲得31名、コミュニケーション力31名、職業倫理行動規範学習32名、職業選択の参考31名）</p> <p>③授業の質について、良好と言う回答が大多数であった。ほぼ質的に良い状況と考える。（評価基準明確31名、学習課題明確31名、分かりやすい説明31名、学生の意見交換発表の場あり30名、質疑応答の場あり30名）</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は「総合人間科学科目」における選択科目であるが、初年次の授業や教育活動、ミーティングなど、大学での活動に必須な、人間関係構築やコミュニケーション基礎、ストレス対処、健康づくりについて、考え会得する最適な場面といえる。また、管理栄養士として絶対的に必要なエネルギー代謝に関して、実体験をしながら理解する場として非常に有用である。学生は積極的で、一定の成績を収めていることから、学習の動機付けと内容の理解には効果があり妥当であったと考えている。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性や効果は高いと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」 学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。昨年の講義で、世界史と関連がやや不足していた点は、今年は史料で補った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、試験の結果からみると、上位者と下位者に2極化している。講義後インターネットを利用して学習を進める学生もいる一方で、受講者が多いために集中できなかったなどが授業の感想としてあげられ、理解不足にある歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差への配慮に加え、教室の学習環境の改善も求められる。成績下位者の学生も大半は再試験のレポートでは理解を深めていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。学生数が多く、双方向的なやり取りが不足した点は課題である。改善策としては、質疑応答の時間を入れ、授業後には史料の確認を図書館やインターネットで行うようはたらきかける。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、学生の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことが現在の世界の情勢と結びつけられるよう思考力を高めるのが課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今、なぜ文学なのか、という問題定義をはじめに考察し、文学とは何かという答えなるものの解釈がなされた時点で、「文学とは実学であること」から、身近な内容に触れながら、文学という視点で、言葉、心、表現、歴史、古典の世界を味わい鑑賞し、自身の生活と照らし合わせながら考えるという講義展開を工夫した。それは、最近の学生が頃に文字離れの傾向が強いので、読書もしない、新聞にも関心を示さない、とにかく目先の得になる内容にしか興味を示さなくなっていることへの危惧があるゆえ、このような授業展開にしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年に引き続きやはり、反応にムラが見受けられる。ただ今年は、文学作品の映画が非常に好評であり、感動して涙する学生もあったほどである。このようなきっかけを大切にしながら、学生の心を考慮しながら、進めてゆきたく思っている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、80%は活かされていると思われる。生きてゆくことへの諸問題を取り上げているので、学生自身の言葉でもっと的確に表現できる実力がつけば、さらなる学力がアップするものと思われる。この点は期待できるのではないかと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

私の講義をただ単に聞くだけではなく、学生自身の考え、解釈を発表できるような講義を工夫してみたいと思う。ときに、内職をしている学生を見つけることがあるため、（ごく一部ではあるが）一人残らず講義に参加させる工夫を講じたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況の総括的評価としては、今年度は75%である。来年度に向けてクラス全体の雰囲気をもっと活性化すればと思う。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>テキストをもとにした穴埋め式のプリントを作成し、これを事前に配布して予習ができるようにした。ほとんどが授業中に板書した答えを写しているようだったが、多くはないものの予習をしている学生もいたようだ。</p> <p>哲学・倫理学の高度な内容を、日常の話題と結び付けながらわかりやすく説明することを心掛け、毎回のレスポンスペーパーで、特定の哲学説と人生の場面とのかかわりについて考え・記述させた。これにより、学習意欲・知的好奇心を増すことにつながったと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験はテキスト、プリント、ノート持ち込み可の記述・論述問題であった。語句説明、あらかじめ発表した論述課題で試験を行った。データをとったわけではないが、成績分布は妥当であったと考える。難易度も印象とは異なり、それほど高いものではなかったことが試験結果からもうかがえる。事前に十分準備した優秀な答案も少なくなかった。</p> <p>一方で、持ち込み可の旨を連絡し、論述試験の課題も事前に伝えていたにもかかわらず、資料等を忘れて、準備不足で不合格となった学生もいた。授業の説明内容・指示内容はおおむね伝わっていたと考えるが、一部、説明が分かりにくいという意見もあり、改善を心掛けた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は関心を持つ学生が哲学の知識に触れることで教養を得ること、人生についての見方を深めることを目標としている。主眼は、各自が関心を持ち、知識と思考を深めることである。授業では講師が学び理解する範囲での哲学説を、日常のさまざまな場面と関連付けながら説明している。そのことで、専門諸科目を学ぶ際に有効な知見や別の視点を得ることができれば十分に目標が達成されたことになる。</p> <p>実際、心理や社会福祉、観光文化等の内容と重なる内容も扱っており、レスポンスペーパーでも別の授業で出てきた内容の理解が深まったとのコメントもあった。</p> <p>以上のようなことから、本科目の内容的妥当性は確保されていると考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>プリント記載内容と追加説明（ノート記載内容）とが混乱することがあるようなので、明確に分けて説明したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>おおむね目標は達成された。基本事項についてもおおむね理解されたと考える。</p> <p>発展的・応用的な内容についても関心を呼び起こし、各自がみずから学習できるよう促したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。初心者にとって外国語は難しい、とくに発音の難しい中国語は、挫折しやすい。授業の実施にあたり大切にしていたことは学習者による学習習慣を身に付けさせ、楽しく学ばせることである。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が76.2%であり、よいスタートであったと感じた。授業ではちょっとハードな発音練習のあと、中国の文化や風習、考え方、最新事情なども紹介したりして、学習者のモチベーションを高め、さらに関心を引き付けるようにしている。</p> <p>②開講時に4段階の学習目標や、学習方法を明示し、「学習状況記録表」を作り、学習者に配布し、学習効果を常に確認できるようにした。</p> <p>③各課に漢字テスト、暗記テスト、コミュニケーションを行い、学習者に「わかった、できた、つながった」の学びの喜びを感じさせ、間違ったところをしっかりと復習しようという意識を高めるようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均は84点であり、標準的なレベルに達し、理想的レベルまであと少しであることから上記のように評価した。</p> <p>また、学生による到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」などの項目の中央値はすべて4.0であったことから上記の評価の根拠である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。この段階で学生により学習習慣を付けさせ、中国語の基礎知識をしっかりと把握させ、分かる、できる、通じるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生も優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容の妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の平均値は4.5、中央値は5.0であり、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2項目の中央値が共に4.0であることからみて、内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習者の学習状況を常に確認し、無理のないように授業を進めていた。 今年度は家庭学習の方法についての紹介を行った。学生たちは授業の課題以外に以下の学習を実際に取り組んだ。①検定をとるために復習をした、②復習、③テスト勉強、予習、復習、④覚えるように努力した、⑤小テスト。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目――中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた 来年度に向けての課題は、来年度の学習者の心理や好みをできるだけ多く把握し、学習者に合った教授法を研究することである。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が半数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては3～4点がでており、授業の質評価でも4であったことなどを根拠と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後も韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもって日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フランス語発展	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>志望動機は全体の66%が「関心のある内容である」「単位数を確保する」と回答したことから、前期の「フランス語入門」にひきつづき、フランス語に対するある程度の興味・関心・期待が伺えた。この授業では、興味関心を持続させられるような、フランスの歴史や文化にかかわる映像を毎回視聴するよう準備した。教科書は「主体的に学びながら力をつける」ことを念頭に置いたものを新規採用し、ペアワークによってフランス語を知的に理解することを重視した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は84.1点（±55点）であり、1名を除いた者が標準的レベルに達した。S評価とA評価は8名中で各2名、B評価も2名だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」に関して100%だった。このことから学生の目標は「やや達成された」と思われる。またDP4「態度」も100%という結果で、技能や表現力を身に着けることができたと考えていることから「やや達成された」と判断する。DP1、DP4ともに「そうでないと思う」という回答はなかった。学習量の面では、回答した3名全員が、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の質評価において、どの項目も評価は平均よりやや高いものであった（平均値は4.0から4.3）。テストや提出物の評価基準を明らかにし、各コマでの学習の範囲や課題は過大な負担のないように心がけた。説明も理解しやすかったようである。授業中に、自主性に任せた発表を行わせることができ、質問にも丁寧に答えることができた。この授業は、内容的に妥当性があったものと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業では毎回、ニュース映像や歴史文化に関する映像を視聴して感想を提出させたり、会話やコミュニケーションをとる時間を多く設けたりすることができた。また、課題となる練習問題を提出させることで個別指導ができた。一方、授業の課題以外に学習に取り組んだと回答したのは66%だった。今後は、授業で学んだことに満足せず、教室外でも興味関心を持ってフランス語に接することができるよう、図書館やインターネットの利用を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

まずは自ら考えて問題解決するという授業を行った結果、各自の主体性、課題達成に向けて助け合う力、自分のことを表現する力のある程度身に着けることができた半期間だった。その一方で、学外でもフランス語やフランスの文化により親しみ、学びたいという意欲を高め、ツールとして使えることを体感できるよう、語学の魅力を伝えていかなければならないと感じている。今後もフランス語を「遠い言語」としない学習方法を模索していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、他の学科の学生から、それぞれの専門分野のことについても聞く機会を設けるなどして、互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価で1割以下の学生が「少しそうではない」と回答しているが、他の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、1割弱の学生が「少しそうでないと思う」と答えている。受講生が想定を遥かに超える人数であったため、授業の方法など試行錯誤しながら行ったため、十分な形で授業を行うことができなかったことが原因だと思われる。大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、地域を舞台に自分自身が活躍できるようになるために、自らの思考、行動をどのように変革したら良いかについて、深く追究することを目的とし、学生団体を立ち上げたい学生や、地域プロジェクトでこれから活躍したい学生、さらには将来地域創生分野に進みたいと思っている学生に向けた専門性のある講義内容とした。毎回様々な地域プロジェクト事例を紹介しながら講義を進めた。さらには地元企業、自治体からゲスト講師を招き、地域プロジェクト事例を紹介してもらいながらプロジェクトワークショップ、フィールドワークを実施、企画からプレゼンテーション（もしくは実施まで）の手法も学んだ。ワークショップの形式で授業が進めたため、次回授業時の課題提出、情報収集などに時間を費やさねばならなかったと考える。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生レベルが違い、毎週軌道修正しながら授業進行しているが、内容的に多少の難しさはあったと思われる。授業開始に前回授業の振り返りを行い、理解促進に努めた。改善課題としては学生の理解度確認と進行状況を常に確認する必要がある。アンケートの到達度自己評価、授業の質評価項目についてみると、上記目標状況は「やや達成された」と考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>フィールドワークをベースとした地域課題の発見から独自の問題抽出・地域課題解決の企画・提案という授業展開のプロセスは問題なく進行したと考えるが、学生それぞれの課題に対応することが困難であった。また時間の有効活用でも課題が残ったため、学生の本授業に対する満足度から見ると妥当な評価と考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>地域貢献に関わる起業ビジネスを想定して授業内容を編成、ボランティア外部講師の講義内容も難解であったため、もう少し平易な内容、課題にするべく改善がひと考える。15回授業の前半は地域貢献、活性化についての知識習得を徹底したい。また、関連他科目、例えば地域活性化演習との連動性も検討したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目については2019年度より開講された新科目であり、女性ゲスト講師希望、時間の効率的な使い方などアンケートにより様々な改善点が見えたと思われる。履修した学生に再インタビューなどを行い、次年度以降の内容に活かしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタントの外部講師から双方向的に学生に働きかけてもらい、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産別科教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。学生からは、人数が多いことへの不満が上がっており、この点の解決は検討する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。課題は、人数が多いため、個別的な対応ができないことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度初めて開講する科目であったため、手探りで授業計画を考え準備を行ったが、履修者が非常に少なかったために、学生の要望も訊きながら能動的に講義を進めることになった。履修者が少なかった理由については、時間割の兼ね合いが大きいと考えているが、シラバスの内容が多く多くの学生にとって興味を持ちにくいものであった可能性も否定はできず、それゆえに、履修者の要望に応じて若干内容を変更しながら進めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は学科毎の履修者が1、2名と極めて少ないため、アンケートの結果について詳細に触れることは、個人の回答にコメントすることになりかねないため控えるが、結果を概観した限りでは、受講生にそれなりの意義や満足を感じてもらえたと見られる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

動機としては「単位数の確保」が多くなっており、自由記述の回答からは、同時間帯の他の科目よりは興味が持てたという程度の動機の受講生が多かったことが伺える。本科目の講義内容について、積極的な興味や意欲があって受講しているという学生は少なかったとみられ、そうした中でも自分の進路選択に役立つ内容だったと感じてもらえたようなので、一定の成果はあったと考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

今年度は受講者が極めて少ないという特殊な状況であったため、講義形式の科目ではあるが、学生の反応を確認しながら進めることが出来た。従って、次年度以降、履修者が増加するようであれば、その規模に合わせた進め方を検討していく必要があると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度は受講者が少なく、このアンケートについては、誰の回答か特定できてしまう方法で実施したため、学生が気を遣って好意的に評価してくれた可能性もあるだろう。新しく開講されたばかりの科目でもあるため、しばらくは学生とコミュニケーションを取りながらニーズを汲み取り、意義ある科目となるよう内容を練っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ世界遺産	1	後期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>毎年度、地理が苦手な学生が多く見られるため、地図を使っての解説をゆっくりと分かりやすく行った。旅行業務取扱管理者試験を意識して、そこで出題されることの多い項目についてなるべく取り上げるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	68名の受講生のうち43名が80点以上の成績となった。退学者・休学者以外の学生の出席状況がこれまでに全く良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

この科目は観光分野の実務系の科目であると同時に、文化を学ぶ人文系の科目でもあり、内容的には妥当であると思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

今回は、学生の学習成果もかなり上がったため、地図の解説方法などを次回の参考にして同様の成果を得たい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業アンケートによると、授業で学んだ内容を発展させて世界遺産検定の学習をした学生が何人もおり、授業が知的刺激になったことがうかがえる。次回は、授業内でも検定試験のことに言及しながら、授業内容と関連づけるようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光産業論	1	後期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「関心のある内容である」54.9%、「単位数を確保する」37.2%、「必修科目である」13.7%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目に小テスト（レポート作成と発表）を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は88.6点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては98.0%、思考判断に関しては98.0%、態度に関する問題も98.0%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、3.92%で、インターネットの利用に関しては、13.7%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「観光産業論」となっており、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容になるよう心掛けているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が96.0%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が100%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「観光産業論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。</p> <p>また、学生の知識理解を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空産業論	2	後期	選択	いいえ	109

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・今年度は、教科書を取り入れて毎回授業の範囲を事前に知らせた。事前学習を指示したが、あまり出来ていなかった様子である。本授業は今後の航空業界への就職につなげる実務重視であるため、常に周りの動向を注視しどのような事象が航空業界へ影響を及ぼすか、また、航空業界の動向が今後の社会に影響を及ぼすか考えて欲しい。</p> <p>・今後の授業については、ビジュアルな教材の提供を考えたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・授業の質評価において、大半の学生から良い評価を得たことは今後の励みとなった。特に、質問等については丁寧に答えたつもりであり専門分野での学習の活かし方は実務経験から適切にできたと考える。</p> <p>・航空会社への就職が決まった学生もおり、今後も更なる就職者アップを目指し、支援していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・航空業界は、今やサービス業の範疇と考えられることから、学際的な知識の習得や人格形成が望まれている。その意味からも、本講座では、人と接する際の臆しない対応のための知識、コミュニケーション力などの実務に即した人間力をつけることの出来る人間形成の場（科目）であると強く思っている。</p> <p>・学生も達成度自己評価において、知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た（79人中79人がそう思った）、事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることが出来た（79人中77人がそう思った）と高評価をしており、更なる成長が期待できる科目と思料する。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>・教科書に即した内容に、現在実施されている航空業界の実情を反映しながら講義を進めていきたい。また、学生からの提案であるDVD等、現場の姿が目に見える形で紹介出来ればと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>・航空産業の過去から現代までの歴史的発展過程を知り、今後益々厳しい課題が山積しているという実情を知り得ることは大変重要と考える。過程を知り、これからの対策に活かせる知識を得て、現場で使える行動力に繋げていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ホスピタリティ論	2	後期	必修	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「必修科目である」62.5%、「関心のある内容である」30.4%、「単位数を確保する」26.8%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目に小テスト（レポート作成と発表）を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は88.7点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、意欲関心に関しては100%、態度に関する問題も98.2%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、7.1%で、インターネットの利用に関しては、25%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から意欲関心、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「ホスピタリティ論」となっており、インバウンド観光におけるホスピタリティを勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が94.6%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が96.4%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「ホスピタリティ論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、態度を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
消費者行動論	2	後期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「消費者行動論」は「マーケティング入門」と対をなす科目である。そのためシラバスでも同時履修を推奨している。この科目では企業マーケティングの基本である「消費者を知ること」を主眼としているが、消費者行動論を理解するためには、関連の専門用語の理解が必須である。その解説と理解促進に重点をおいている。授業テキストは特に用いていない。実際の企業経営の中心課題であることは周知の事実であるが、2018年度より本学科のカリキュラムに「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置された。その為、学生の興味喚起のために観光・旅行系などの企業経営、自治体など団体組織におけるマーケティングと消費者行動理解を促している。また、消費者行動に興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業組織・経営の基礎理論の初学学生にマーケティング・消費者行動への興味・理解をさせるために新聞・テレビなどの経済経営記事に慣れ親しむ事を学習準備として示している。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎年受講生レベルが違い、毎週軌道修正しながら授業進行しているが、内容的に多少の難しさはあったと思われる。昨年度より授業開始時に前回授業の振り返りを行い、理解促進に努めた。改善課題としてはマーケティング入門の関連科目のため、双方の授業内容と進行状況を常に確認する必要がある。アンケートの到達度自己評価、授業の質評価項目についてみると、上記目標状況は「達成された」と考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>グループワークなど授業の進め方については学生の興味喚起を目的に導入を考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量0が受講生に多く(25名)いるため課題内容、レポート内容など工夫したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
経営学入門	1	後期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「関心のある内容である」58.5%、「単位数を確保する」43.4%となっております。もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目に小テスト（レポート作成と発表）を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は88.8点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関しては100%、意欲関心に関する問題も98.1%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、5.8%で、インターネットの利用に関しては、25%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「経営学入門」となっており、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になるように内容に心掛けてるので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が94.3%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が98.1%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「企業での就職」をつなぐ要の位置にある「経営学入門」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、意欲関心、態度に関する力を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	川上 耕平

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	1	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この講義は1年生以上が対象であり、観光文化学科で学ぶ学生の基礎的教養を提供する場となるので、戦後世界の歴史に関する常識的知識（日中戦争・日米戦争・ベトナム戦争・日米安保などのトピック）の説明にいつも重点を置いている。例年講義の初回に、社会科系の授業（日本史、世界史、政経など）を履修したことがあるか受講者に尋ねているが、その数は少ないため（あるいは、受験に関係がないので忘れてしまったという声もあった）、高校、場合によっては中学の学習内容から遡って説明をするようにしている。ちなみに、2019年度の受講動機のトップは、「単位数を確保する」が最大の57.9%であり、「関心のある内容である」は52.6%であった。2020年度は後者がトップの動機になるよう努めたい。</p> <p>②「学修準備性」という点に関していえば、本講義は教科書を指定していないので、事前にレジュメを配った場合には、それを前もって読んできてもらうようにした。しかし担当講師は、予習よりも復習に重点を置くことが肝要であるという方針をとっているため、2020年度も同様の方針を伝えるつもりである。</p> <p>③また、この講義では、映画のワンシーンや音楽を利用するなど、ポピュラーカルチャーを用いた内容にして、受講者の関心を喚起している。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価は、2019年度も宿題と学期末の試験の2つを柱とした（毎回コメントカードを書かせて、鋭い内容のコメントを書いた学生には点数を加算すると説明していたが、そうした学生は2019年度はいかなかった）。</p> <p>期末試験は7割の学生が70点以上の点数をとれるような水準で考えているが、本学の学生は相応に優秀であるため、この基準はクリアしていた（試験を受けて単位を落とした学生は0%であった）。また、宿題もほとんどの受講者が提出し満点であった。ただ今年度は、諸事情により途中から授業に出席できなくなった学生が1名いた。途中から気持ちを入れ替えて遅れを取り戻そうとしたようだが、最後の試験を受験することはなかった。こうした学生のフォローをどうすべきかということも2019年度は考えさせられた。</p> <p>「到達度自己評価」の数値でみると、「自分なりの目標を達成した」という項目で、「まあまあそうだと思う」以上の回答は39人中37人であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」については、やはり「まあまあそうだと思う」以上の回答をした者は、それぞれ100%（39人全員）であった。こうした数値から見て、担当講師は教育目標をほぼ達成したと考えている。</p> <p>ただ、各回の講義でかなり豊富な文献紹介をしたにもかかわらず、「図書館利用」をしたと回答した者は39人中2人だけであった。その点「意欲関心 (DP3)」は「達成された」とは言いがたいかもしれない。その意味で所期の教育目標が100%達成されたとはいいいがたいかもし</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 観光を学ぶ学生にとって国際政治の知識は不可欠のものであるが、本講義ではそれだけでなく、外国語の読解にとっても必要な知識を提供している。なぜなら、外国語は文法や単語を詰め込んだだけでは解釈することはできず、多岐にわたる背景文化についてそれなりに知識をもっていないと、適切な日本語に置き換えることはできないからだ。以上のことは2018年度のリフレクションカードでも書いたことだが、「到達度自己評価」欄の「まあまあそうだと思う」以上の数値は、(1)「自分なりの目標を達成した」こそ39人中37人だが、重要な指標と思われる他の(2)～(7)は39人中39人(つまり100%)なので、こうした数値を以て、講師の意図が伝わっていると考えたい。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容妥当性 成績を見る限りでは、特に重視されるべきDP1(つまり知識理解)は、それなりに達成されていると考えられる。 以上から、DPやカリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、内容的に妥当だと考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」の欄の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」という項目は、「まあまあそうだと思う」以上の回答をした者が39人中34人いた。この講義では、学生との質疑応答を重視しており(授業中に学生を指名して答えてもらう)、この数字はそうした方法が学生に評価されたということの証左と考えている。このような授業は少人数でないとし難く(実際には20名前後の履修者が最適だと考えている)、2019年度のように40名ほどの受講者がいると、なかなか難しい面もあるが、こうした授業の進め方は2020年度も続けるつもりである。</p> <p>ただし、「図書館利用」の欄は、インターネットも含めて「利用しなかった」が圧倒的に多い(全回答者39人中利用したのは2～3人)。講義では、学生がわからないようなところがないようになりかみ砕いて説明したつもりなので、それが講義を聴くだけにとどめた要因になったとも考えられるが、疑問がでないような講義にしたとしても、講義外でも何か調べたいような関心を維持させられなかったとすれば、それは反省材料である。2020年度はそうした点に配慮したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本講義は40人以上の履修者がいたため、一斉授業型で進め、国際政治を理解する上での基礎知識を提供する役割に徹した。アンケートの回答をみるかぎり、履修者の知識習得はうまくいったと考えている(「到達自己評価」のデータから判断した)。もし2020年度の履修者数が少ないようであれば、受講者参加型というかたちの講義ができるかもしれない。</p> <p>2019年度は、全体として概ね学生の期待に応える講義を行うことができたと考えているが、講義以外での家庭学習(紹介した文献を読むなど)に時間を割く必要性を理解してもらえなかったのは反省すべき点だ。観光文化学科の学生には語学の習得などに力を入れてほしいと考えているが、そうした学習時間を圧迫するような課題を本講義が出してよいのかどうかという点は、いつも悩むところではある。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フィールドワーク入門	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は全15講のうち、前半にフィールドワークの意義と役割を座学で学び、中盤から後半にかけては受講生が自ら設定した研究テーマに沿ってフィールドワークを含めた調査を行なってもらうという流れで催行した。授業にあたって工夫したのは以下の諸点である。</p> <p>①フィールドワークは1-3名からなるグループで行なってもらった。また、グループごとに、(1)テーマ決め等を含む事前準備、(2)催行直前の調整、(3)催行後の結果発表、の3回に分けて発表してもらった。</p> <p>②成績のメインとなったのはもちろんフィールドワークにかかる一連の取り組みである。このフィールドワークにかかるグループ発表の評価については、「秀」が1名、「可」が8名、「不可」が3名であった。</p> <p>③フィールドワークについて最終講に気付いたことや新たな発想・発案を各自でレポートにまとめてもらった。レポート点の評価については、「秀」が8名、「良」が1名、「可」が2名、「不可」が1名であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講登録者は14名であったが、長期欠席により、実質の受講者は12名であった。学年は全員が1年生であった。長期欠席者を除けば、1名以外の全員が単位を取得することができた。</p> <p>授業評価アンケート（回答者10名。以下同）によると、図書館の利用のうち、図書・雑誌を利用した者は5名、CiNiiなど学術データベースを使用した者は4名であった。半数から半数近くが利用していたことがわかる。また、インターネットを使用し、（一般的なサイトにより）検索などを行なった者は8名であり、これも含め、大部分が何らかの形でフィールド外の文献などから調べていたことがわかった。一方、半数から少数ではあるが、同じグループのメンバーに依存していたことも示された。今後とも受講生全員が文献等に当たってもらえるよう喚起したい。</p> <p>出席状況については、皆勤は2名、1回欠席が3名であった一方、4回欠席も1名いた。こうした普段からの取り組みが最終成績にも影響していたと考えられる。</p> <p>フィールドワークの取り組みやレポート点、平常点から総合的に評価した結果としての成績内訳は次の通りである（長期欠席による定期試験受験不適格者を除く）。「秀」1名、「優」1名、「良」6名、「可」3名、「不可」1名。「良」以下の層が厚いことが認められる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>上述した内容からも示された通り、よく努力してくれた者から最低限の努力の者まで幅が生じたが、総じて芳しくはなかった。</p> <p>授業評価アンケートによると、「受講動機」（複数回答可）は「単位数を確保する」が最も多く、8名。次いで、「関心のある内容である」が3名であった。ほかに「GPAをあげる」と「友人が履修している」が2名ずつで、こうした動機ではなかなか意欲が湧いてこなかったかもしれない。自立・自律した考えの下で履修してもらえるようほかの担当科目も含め、促したい。</p> <p>「到達度自己評価」は10項目あるが、ポイントはすべて3.3から3.8の間の範囲に固まっていた（5点満点）。最高点である3.8は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3項目であり、これについては科目の特質を理解し、首尾よく身につけてくれたと言える。3.3は「職業選択の参考になった」であるが、そうした性質の科目ではないため、高く出なくとも妥当ではある。</p> <p>授業アンケートの自由記述では、「学習量の評価（授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由）」として、「レポートや他の授業がいそがしかった」などがあった（3名が回答）。まずは授業の課題に取り組んでくれることが大事であり、余力があればそのほかの学習をしてもらえればよいだろう。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目ではフィールドワークについて、知識・実践・有意な経験を授けようと努力されたが、受講生達は上述のように、人によって努力の量に差が認められた。</p> <p>授業評価アンケートによると、予習について、2時間から2時間半と1時間から1時間半がそれぞれ3名であったが、一方で、0も1名いた。復習については、2時間から2時間半が1名で、30分が6名と、予習よりも全体的に低調であったが、ここでも0が3名いた。先に述べたように、グループでの取り組みが多かったため、メンバーに依存してしまった者も出た様子である。</p> <p>ノートテイクについては9名がしてくれた。授業の課題以外の学習に取り組んでくれた者も2名おり、率先してグループを率いてくれた層も確実にいたことが明らかになった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」によると、これは5項目あるが、すべて3.5から4.1という範囲の中にあった（最高点5）。最高点の4.1は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の2項目であり、やるべきことが伝わっていた。最低点の3.5であったのは、「説明は理解しやすいものであった」である。担当教員としてはこれについても当然努力したと考えるが、上述のようにモチベーションがいまひとつであった受講生を中心に、それがうまく届いていないこともあったとデータからは読み取れる。「友達が履修するから一緒に」、「グループで取り組めるのでメンバーの友達に任せたい」といった層であっても、しっかり届くよう、今後一層の努力を行ないたい次第である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
イベント・テーマパーク論	2	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ツーリズムおよびビジネスの両コースに関連する科目である。そのためシラバスでもマーケティング関連科目、観光関連科目の積極的履修、あるいは履修していることを推奨している。この科目で両コースを選択している学生にとって関心のある科目のため、イベントの視点から地域活性化と観光の視点からのテーマパークを理論的、実証的に理解することを主眼としている。そのため北九州市内のテーマパーク運営会社の協力のもと、グループワークによる企画プレゼンテーションを取り入れてより実践的に理解できるよう工夫している。テーマパークの企画・プレゼンテーションでのグループワークは学生の意見として充実度が高いとの感想があったため次年度以降も取り入れる予定である。授業テキストは特に用いず、担当教員の作成した配布資料で進行しているため特に予習は課していない。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	アンケートの到達度自己評価と授業の質の結果によると上記目標達成状況は「やや達成された」が妥当と考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>アンケートの受講動機と学習到達度の自己評価(1)(2)からDPとの内容的妥当性はあると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>毎週軌道修正しながら授業進行したが、内容的に外部講師授業やワークショップ形式授業を増やし、学生が積極的に学ぶことが可能な授業環境づくりの検討が必要である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>毎週軌道修正しながら授業進行したが、内容的に外部講師授業やワークショップ形式授業を増やし、学生が積極的に学ぶことが可能な授業環境づくりの検討が必要である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域活性化研究	2	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「地域の活性化とはどのようなことか」、「活性化している地域としていない地域は何かが違うのか」といった点を柱とし、社会学の知識を援用して考察していくものである。これにかかり、以下の工夫をした。</p> <p>①理論と実例を基に全員で考察した。</p> <p>②3回に渡って中間レポートを課した。期末の試験は実施せず、これら3回のレポートに成績の比重を置くこととした。なお、各回のレポートの内容は地域活性化について関心のあるトピックについて深めてもらうものである。受講者各自のレポート点の平均については75点から100点までの幅であった（満点100。なお、未提出者が1名いた）。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は19名であり、学年は全員2年生であった。学術的な内容の講義ではあったが、成績上位の層が厚く、ほかの者もそれに引っ張られる形となり、安定して授業が進んだ。</p> <p>授業評価アンケートの「図書館利用」について（回答者18名）を見ると、2名が図書・雑誌の利用をしたが、CiNiiなど学術データベースの利用は0であった。なお、それぞれ無回答も1名いた。また、インターネットを使用し、（一般的なサイトにより）検索などを行なった受講生は3名であった（同じく無回答1名）。この2-3名という数は最終成績で100点となった者の数（4名）に近い。</p> <p>出席状況について、皆勤者は6名であった。これは最終成績の95点以上の者の数と一致する。一方、4回欠席も1名出た。また、欠席過多による定期試験受験不適格者も1名出た。</p> <p>単位は定期試験受験不適格者以外を除き、以下のようになった。「秀」9名、「優」5名、「良」3名、「不可」1名。「秀」と「優」で全体の78%を占めており、概して芳しいものであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>すでに上記の4で示したように、学術に特化した内容ではあったが、上位層を中心として科目の特性を理解してくれたため、授業の展開はスムーズであった。</p> <p>授業評価アンケートによると、「受講動機」（回答者18名。複数回答可）は「単位数を確保する」が12名と67%であった。確かに、優しく、わかりやすくはしているが、そういう風に「楽勝科目」のように捉えて欲しくはないと感じる。次点で「関心のある内容である」が6名(33%)であった。</p> <p>「到達度自己評価」（回答者18名）は10項目あるが、すべて3.3から3.1の範囲に収まっている（5点満点）。3.3は「自分なりの目標を達成した」と「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の2項目であった。3.1は「職業選択の参考になった」であった。これは実務科目ではないため、やむをえない。</p> <p>このように、全般的に学生の理解がある上での授業であったため、授業を行ないやすかった。なお、授業アンケートの自由記述は「ほかの課題があり、授業課題以外の課題はできなかった」旨の2件であり、特筆すべきものはなかった。今後とも誰にでも理解してもらえるよう、わかりやすく説明したい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学術的な内容であり、（実務科目を多く履修するなど）これまであまりそうした内容に触れてこなかった受講生には難しかったかもしれない。しかし、授業の運営自体は上述のようにスムーズに行なえたと考える。</p> <p>授業評価アンケートの「学習量の評価」（回答者18名）によると、予習・復習とも3時間が1名、2時間～2時間半が同1名、1時間～1時間半が予習では2名、復習では1名と3-4名はしっかり行なってくれていた。一方、0も予習で8名、復習で9名出た。日頃からの学ぶ姿勢の定着を促したい。</p> <p>ノートは11名と過半数がとってくれたが、7名はとっていないということである。また、授業の課題以外の学習については4名が取り組んでくれた。この4名という数は先にも挙げたように100点の学生数と重なる。自発性をもって臨んで欲しい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」（回答者18名）の結果が物語っているであろう。5項目あるが、3.6か3.2のどちらかであった（満点5）。3.6であったのは、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の2項目である。3.2であったのは「説明のわかりやすさ」や「教室内のコミュニケーション」にかかる項目であった。これらも科目担当者としては十分に配慮したと認識しているが、受講生は相対的にそう受け取っていないため、まずはより4点に近づけるよう、意識したい。</p> <p>総じて授業運営がしやすかったが、先に述べたように一部の優秀な受講生に引っ張られてのことでもあった。「すぐによくわかる」というのも大学の本来的な学びからすると危険であり、そうした中、学習習慣のない者をどのように自発的に調べ、考える作業へと向かってもらうかは今後も継続的に検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用英語	1	後期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目「基礎英語」から引き継がれる必修科目という位置づけから、前期に学んだ基礎英語を基盤にして、普段、教室の英語では触れない様々なタイプの英語(例えば、アメリカ英語の口語体で書かれた文書、など)に取り組んで、さらに英語力の幅を広げてほしいという狙いから、海外の大学が独自に制作している「留学生向けのキャンパス生活指導ハンドブック」の一部を教材に用いました。主に英米の大学のものを通じて、例えばアメリカ英語の会話に頻出する慣用表現を知るといった、ふだん接することのない英文に馴れるだけでなく、海外の学生生活の一端や文化、風俗、習慣、さらにはその国の特徴や国民の性格特徴に至るまで、幅広い知識を持ち、視野を広げてもらうことを目標にしました。また学科の方針に則り、毎回、「英単語小テスト」(初回はテストの説明、最終回は翌週に答案返却できないため、総計13回、各30問を作成して実施)と、「多読(英文読書)レポート9回以上」を実施しました。なお「英単語小テスト」は翌週に採点した答案を返却するだけでなく、講評を加え、さらに得点の集計と分析結果を公表し、テストへの意識を高めてもらえるように努めました。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回実施した「英単語小テスト」に関しては、欠席や遅刻による未受験者が若干見られましたが、クラス全体の平均点では、努力が認められる結果(概ね50%に近い平均点)であったこと。課題の「多読(英文読書)レポート」については受講生全員が完遂したこと。平均70～80点を目標に作成した学期末試験の結果、得点上位者と下位者には、かなりの開きが見られましたが、クラスの平均点では、おおよそ75点であったこと。これらを総合的に判断して、目標はほぼ達成されたと判断し、「やや達成された」としました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP, CP, カリキュラムMAPにおける位置づけは、必修科目の一つであり、「基礎英語」で習得した英語基礎力を応用し、さらに発展させる科目として、英語の「読み」「聞き」「書き」「話す」4技能の上に、「様々なタイプの英語」に習熟することや「英語圏の人や文化」を知ることは「応用」の観点から不可欠の要素であることから、極めて妥当であり、DPの「知識理解」に適ったものであると判断します。また学科の方針である「英単語テスト」の実施や「英書の多読」も理に合っていると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>すでに、上記の「目標達成状況」と「その判断の根拠」で述べましたが、授業の状況(指名して口頭発表した際の内容など)や課題レポート(英書の多読)や各種テスト(学期末試験や毎回の英単語テスト)の結果を総合して、概ね達成できた(評価「やや達成された」と判断しましたが、「もっとわかり易く説明してほしい」という要望と「もっと授業レベルを上げてほしい」という要望は、同時に両方を満足させることは、(特に「マンツーマン」のチューター授業でないクラスでは)大きな現実問題ですが、クラス全体のレベルと受講生個々のレベルの調整は容易ではないものの、今後、英語力の不足気味の受講者層を、引き続き主対象にしつつ、高いレベルを望む受講生には、別途、課題を与えるなどの方策を講じたいと考えています。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>応用英語という科目にふさわしく、「基礎英語の後に続く内容」や「様々な応用された英語とはどのようなものを指すのか」といった、授業で取り上げるべき内容や対象の再検討と、その内容や対象の体系化(許された授業回数や時間の中で、求められる学習内容や学習対象を恣意的に、あるいはアトランダムに選ぶのではなく)を探りたいと考えます。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用英語	1	後期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教科書「Cultural Leaders in America Today 2」と「TOEICテストにできる順英単語」は学科C Pの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。教科書の難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した和訳用紙を学生に配布し予習を徹底化した。和訳用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で和訳用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。予習用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた和訳を全て提出してもらった。「TOEIC単語集」に関しては、毎回の授業で小テストを行った。その際、単語の発音、反意語、同義語の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は84点であり、再試対象者は2名であった。評価の対象は定期試験、単語テスト、多読レポート9週間分、CHleruマイル数の達成であった。評価対象が多すぎた為に、前期の定期試験の点数が伸びなかったことを受けて、後期は授業内でテスト範囲の復習を徹底化した。多読レポートに関しては、授業中に書いて提出するなど課題をクリアすることのみに意識が集中し、内容が伴っていないレポートが多く見られた。学生の能力に見合った学習内容の検討が必要だと考えられた。また英語学習に対して前向きに努力する学生とあまり興味を示さない学生がおり、クラス全体の学習レベルを均等に保持することによりかなりの工夫が必要であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性：長文の読解ができる、習慣として英文を読むことができるなどは多読レポート提出義務や和訳の予習、TOEIC単語暗記等で大多数の学生が体得できたと思われる。②DP,行動目標からみての内容的妥当性：DPの評価に関しては大多数の学生が各項目について平均的評価を示していることから授業内容にほぼ納得していると考えられる。しかし「職業倫理や行動規範について学ぶ」「職業選択の選択参考」の項目は、比較的低い評価を示す学生がおり、英語学習と職業倫理や行動規範との関連を理解することが難しかったのではと考えられる。しかし全体的に英語学習における自己目標や達成より授業内容や指導についての評価の方が全体的に高く、以上のことから本科目の目的にかなっていると判断し、内容的妥当性には問題がないと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価：「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題の明らかなさ」は評価が高く、オリエンテーションでの説明と授業中での指示を理解していたと考えられる。「説明は理解しやすかった」の評価は比較的低かったが、これは学生の英語力に差があるために、過剰な説明だと感じる学生、あるいは簡略化されすぎて説明不足と感じる学生が多かったからだと考えられる。②学習量の評価：予習に一時間以上の時間を要した学生が6割、復習は6割の学生が行っていなかった。このことから課題に多くの時間を取られていることが分かる。確かに和訳、多読、単語暗記と課題はかなりの量であったが、真面目に取り組んでいたことが成績評価に表れている。③情報利用：シラバスを参考にした学生は半数であり、シラバスあるいはオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も半数以上であった。しかし、シラバスの内容理解にまでは至っておらず、オリエンテーションにおける授業計画を的確に明確に伝える必要性を強く感じた。④図書館利用：大多数の学生が図書館の利用を行っていた。これは情報収集というよりも多読レポート用図書の貸し出しの為と思われる。学生の中には大学における英語学習を受験英語の延長と考えている学生も多く、図書館利用とは無縁だと考えている。オリエンテーションにおいて授業内容の説明だけでなく、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教科書の難易度が比較的高かったために、予習や自己学習で苦勞している学生が多かった。しかし、知らない単語や語彙は必ず調べてくるようにと指導したので、授業中に文法解説、内容などの補助的な説明をすると自力で和訳ができ、学期末の和訳用紙には全ての書き込みを完了していた。これが学生の自己達成度が高い評価を示す結果となったと考えられる。また、多くの課題や難解な和訳に挑戦する姿勢がクラス全体に形成されていたこともプラスに作用したと考えられる。学年やクラスの雰囲気によっては、多くの課題や難解な問題を敬遠する場面もあるが、これをいかに学生の達成感へと繋げるかが今後の重要な課題となると考えられる。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中級英文講読	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>テキスト選択に当たり、英語の学力向上だけに止まらず、英単語の由来やその裏に隠された文化や歴史を克明に語ったエッセイを通じて英語の歴史や文化に対する知的好奇心も養ってもらいたいと考えて、一般的な小説類ではなく、英単語にまつわる知的エッセイを選びました。採用したテキストは、年間30回の授業を前提に編集されたもので、各項目は完全に独立したエッセイですので、テキスト前半は前期開講の『初級英文講読』で取り上げ、今学期の本科目『中級英文講読』に引き継ぎ、取り上げました。英文読解だけに偏らないように、各エッセイはネイティブ録音のCDを聴いてもらい、さらには各項目ごとにディクテーション(英文の書取り)を小テスト形式で実施することにしました。ディクテーションのための解答用紙、課題の記入用紙、各課題の試訳や正解例を印刷配布するための準備をして授業に臨みました。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバスに記載の通り、最終評価の70%を占める学期末試験を、平均点が70点前後になるように難易度を調整して出題しましたが、結果として全受験者の平均点が100点満点で約75点であったこと。最終評価の30%を占める小テスト(授業中に取り上げなかった項目について、本文の全和訳とディクテーション以外の全問題の解答を自宅での課題として提出してもらい、採点した評価も含む)平均点が100点満点に換算すれば80点に近かったこと。全受講生(20名)の半数以上(12名)が一度も欠席がない点からも明らかのように、受講生全体の出席率が非常に良く、授業への参加度が極めて高かったこと。これらの諸評価を総合して全般的に「達成された」と評価しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは、単に英語力向上を目指すだけでなく、大学生として英語の背景にある歴史や文化にも興味を持ってもらいたいという目標を掲げる本授業は、十分に妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各エッセイは英単語にまつわる文化や歴史を論じた高度なものであるため、内容を講義するだけでなく一人一人が時間をかけて辞書を引き、苦勞しながら読解を進めることで、初めて各エッセイの内容の理解が深まることを考慮して、いくつかの項目は課題として自力で読解してもらった後に、全文和訳と問題の正解等をプリント配布の形で与えましたが、受講生全員がこの課題をよくこなしました。読解だけに偏らないようにテキスト各項目のリスニング問題は小テスト形式で実施し、その翌週に採点結果と講評を付して、各自で正解を確認してもらいました。また英作文の問題については全て受講生の板書してもらい、その作文を全員で検討する形で英語力のブラッシュアップを図りました。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

4の「学生の目標達成状況について」の項目でも述べましたが、全体的に授業への参加度が高かったため、授業の進行もスムーズでした。今後も、受講生が全員、足並みそろえて、当初の授業目標を十分に達成するためには、今後も小テストや課題など、かなりの頻度で実施したり、常時、課題を課すなどの、予習復習を励行してもらおう手段を講じなければならないと考えます。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マルチメディア・イングリッシュ応用	2	後期	必修	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>コンピュータを使っての英語教育であり、指導者対受講生の一方通行ではないやり方をできるだけ取り入れている。具体的には学生一人当たりの学習時間（アクティブに教材にコンタクトする時間）をできる限り増やすことを大切にしている。またPCを媒体に行う単調さを避けさせるために、ペア学習も行っている。受講動機は比率（%）で示すと、必修授業である（92）、単位数を確保する（16）、関心のある内容である（4）、友人が履修している（4）であり、外圧的な動機付けの方が強い。開講時の学生の学習準備性については、授業で使うE-learning教材を学外でも、スマホでも使えることを説明して、高まるようにしている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価は、26名中の15名(A),7名(B),2名(C)、2名(D)となっている。学習量の評価では、30分程度以上の準備をどれくらい行いましたかに対して、もっと多い回答は、2、3回の8名であり、1回30分以上の復習をどのくらい行いましたかに対して最も多い回答は、ゼロ回と2,3回の8名だった。自由記述には、学習量の評価について3名あり、1. 予習、2. 英語の動画を見た、3. その日のふり返りをしたとなっている。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、1. 十分、2. 他で忙しいからとあった。到達度自己評価は、10項目のすべてにおいて、3.8～4.0に位置している。授業の質評価は、4項目全てで3.9～4.1に位置している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

2018年度開始のカリキュラムでの新規科目の二年目である。旧カリキュラムでは英語関連の必修科目はすべて1年次であった。2年次に英語関連の必修科目を設けて、3年次以降の学習の発展につなげて、将来の進路選択の幅を広げることに結びつくようにしている。これらのことで、DP、CP上の位置づけは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

このような授業を旧カリキュラム授業から担当してきた。高校の授業「情報」が高校によりいろいろな内容で展開されているという前提がある。また、大学1年次に情報関連科目（選択科目）の授業の履修状況により、当授業の導入時期の内容にいろいろと手立てが必要となる。学生はスマホ全盛の時代に育ってきており、スマホには強いが、PCにはさほど慣れていない学生が多い。また使用教室のPCがMacであり、大半の学生が幾分たりとも慣れているWindowsと違うところに慣れさせる必要もあり、これが英語関連の授業でカバーすべき内容なのかを自問しながら、取り組んでいる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

E-learning学習に使いやすいように設けられた教室であり、その特性を生かした授業の展開を行う必要がある。学生と個別に発表させることは、教室の構造上不向きであり、そのためには、教員が机間巡視をする必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マルチメディア・イングリッシュ応用	2	後期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>E-learningのCHleruを教材として英語を多面的に学ぶことを目的にしています。マルチメディア教室で学生が各自、PCを使用して自分のスピードで学習できることに大きな利点があります。特に各自の能力にあったスピードで学習が繰り返しできることから、学生一人一人のリスキングの向上と発音の上達を目標としています。具体的にはTOEICの450点レベルのリスキングができ、さらに基本的な母音と子音の聞き分けができ、その正確な発音ができることです。またディスプレイを見ながら、ブラインドタッチでの基礎的な入力ができることを目標にしています。そのため学生各自のPC学習の監督には特に力を入れ、またリスニング問題のスク립トから文法問題を作成し、授業中に配布実施を行い、学生のリスキング問題への理解度を更に深められるように配慮しています。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は86点であり、再試対象者は1名であった。必須科目のため、DPの評価において、大多数の学生が真剣に取り組んだことが推測される。特に「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「意欲を深めることができた」等を高く評価した学生が多かった。これらはCHleruの内容を繰り返し学習し、文法問題で内容を定着させることで、自分なりの目標を達成できたと実感した学生が大多数であったからだと考えられる。全体的に英語学習に対して前向きに努力する学生が多く、クラス全体も意欲的な雰囲気が形成されたようである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性：リスニング力強化を目標に、TOEICや英検などのリスニング対策をあわせて行うことで、ツーリズムおよびビジネスの専門科目の体系的学習を可能とする効果を大多数の学生が体得できたと思われる。②DP,行動目標からみでの内容的妥当性：DPの評価に関しては大多数の学生が各項目について高い評価を示していることから授業内容に納得していると考えられる。ただし「職業倫理や行動規範について学ぶ」「職業選択の選択参考」の項目は、比較的低い評価を示す学生が多く、質問と授業内容をリンクさせて考えることが本科目においては難しかったと思われる。以上のことから総合的に判断し、本科目は内容的妥当性には問題がないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価：「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題の明らかなさ」は評価が高く、オリエンテーションでの説明と授業中での指示を理解していたと考えられる。「説明は理解しやすかった」も評価が高かった。また学生は各自のスピードで学習できる環境から、ゆとりある語学学習ができたことに満足感と達成感を感じていたと考えられる。②学習量の評価：CHleru1500マイル以上の達成を課題にしていたので、予習復習を兼ねて各自でリスニング問題に取り組んだことが、学習量の評価につながったと考えられる。③情報利用：シラバスを参考にした学生は半数であり、シラバスあるいはオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も半数以上であった。しかし、シラバスの内容理解にまでは至っておらず、オリエンテーションにおける授業計画を的確に明確に伝える必要性を強く感じた。④図書館利用：大多数の学生が図書館利用を行っていなかった。英語学習は図書館利用とは無縁だと考えている学生もいる。オリエンテーションにおいて授業内容の説明だけでなく、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

E-learningのCHleruを教材として、PCで学習するメリットが最大限生かされ、これが学生の自己達成度が高い評価を示す結果となったと考えられる。また、リスニング練習を通して、学生各自が自身の弱点に気づき、改善点を模索するという効果も得られた。さらに多くのリスニング問題に挑戦する姿勢がクラス全体に形成されていたこともプラスに作用したと考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級英会話	2	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into discussion and presentation based learning. By listening and reading about relevant social issues, students practiced intermediate to high level language comprehension. Students also learned to formulate and express individual opinions, while at the same time learning to positively respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. After extensive textbook related activities and discussion of the issue, students were encouraged to prepare and present on the current topic in front of the class.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 10%, active participation 20%, homework and presentations 30%, quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

This semester saw less than 30 students, down from 60, making it much easier to manage the active learning environment. Communication based activities were largely successful, and students were much better able to self-regulate, making for a good learning environment.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Loosening of the student seating plan allowed for a better mixing of students adding variety to the communication based activities. Monitoring of homework and assignments were also much more manageable, and more individual attention was given to weaker students.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2	後期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>インターネットの発達や世界のボーダーレス化に伴い、高度に情報化し、国際化した現代社会において英語は政治・経済・文化・外交などの諸分野で一層、大きな役割を果たしています。また企業の海外進出、海外の企業との合併、海外での子会社設立といった激変するビジネス社会に対応して、ビジネス英語のニーズも激増しています。このようなビジネス英語を取り巻く環境の変化、ニーズの変化は目まぐるしく、これまでのビジネス英語が取り扱ってきた対象を拡大する必要性が生じています。一例として、インターネット時代に入り、従来の手紙や電信・電話といった通信手段がEメールに取って代わることで、ビジネス英語のスタイルや構成にも変化が見られるようになりました。使用したテキストは海外の企業との取引をストーリー化したもので、実例を見ながら、実地に新しいビジネス英語のスタイルや構成を学んでもらうことに重点を置きました。ただ、ビジネス英語の基本は、日常の一般的な英語力であり、また初めての相手との会話や交渉に通じるエチケットやマナーや心遣い(これらを一般に「プロトコール」と呼んでいます)であるので、授業全般を通じて、英語力の引き上げと、ビジネスに直結する「相手に対するエチケットやマナーや常識的心遣い」を学んでもらうことが目標になりました。なお、使用したテキストは、出版社のホームページからすべての音声ファイルが無料でダウンロードできるので、必ず音声ファイルを手に入れてテキストと並行して音声面の学習が進むように配慮しました。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業中に2度実施した復習テストでは、いずれも15点満点で、クラスの平均点が1、2回目ともに6点で、目標にしていた7点を下回りましたが、いずれにも欠席による未受験者が数名いましたので、これらのクラス全体平均点への影響を差し引くと、概ね、設定していた標準点に近かったこと。さらには、学期末試験では、クラス平均点が70～80点になるように難易度を調整して作問しましたが、結果として、満点に近い高得点者と低得点者の間の得点差は大きかったものの、平均点としては、ほぼ75点でありましたので、これらを総合して、「やや達成された」と判断しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP,CP,カリキュラムMAPにおいて、本科目はビジネスの分野で求められる必要にして最小限の英語力の養成と同時に、ビジネスに必要なプロトコール(いわゆるエチケットやマナー)の知識とその実践を目指す科目として、妥当な位置づけであり、またDPにおいても、「知識理解」と「技能表現」に位置づけられて、十分に適合していると判断します。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>現実問題として、クラス全体の授業の足並みの問題から、欠席時の授業内容をどのようにフォローするのか、授業中の小テストの未受験など、該当する受講生にどのように対処するのか、などの難しい問題があります。テキストの聴き取り問題として用意された音声ファイルは平易な英文でしたが、音声を聴いても英文が聴き取れないという一部の受講生の意見を受けて、テキストにない音声スクリプト(読み上げられている英文を活字化して配布する)を作成して、全員に配布して、聴き取れない受講生が活字を見ながら、音声の確認が出来るように配慮しました。授業以前の問題もいくつかありますが、可能な限り、改善に努めたいと思います。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>英語力の涵養に不可欠な音声ファイルが入手でき、テキストと音声と、さらにその音声ファイルのスクリプトを配布することによって、完全な学習が可能になっている今の環境を最大限に活用するという貪欲さを持っていただきたいと思います。授業の終了後も、さらに研鑽を積んで自らの英語力を強化して欲しいと願っています。すでに上記の「達成状況」ならびに「その根拠」の項目で「ほぼ達成された」と述べた通りですが、特に選択科目では現実の問題として、初回にはテキストを持たず、授業内容の確認に出席し、その後、受講を決めてからテキストを手に入れる受講生も少なからずいますので、限られた授業回数をさらに無駄にしないように、授業の内容や進め方も含めて、可能な限り、これからも創意工夫に努めたいと思います。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初級中国語会話	1	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>一年生を対象とする授業である。学習者が中国語学習は初めてなので、中国語の特徴と学習方法を説明する。中心に中国語の発音、基本文法の学習、会話の練習を通して、中国語の話方、習慣の表現等の特徴を理解し、基本的応用能力を身につけてもらう。更に中国語の理解を深めるために、中国の文化、社会、歴史などを適宜に紹介する。学習者の学習への意欲を向上させ、学習状況を確認するため、ユニットごとに確認テストを行う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87点であり、再試対象は0名であった。全員標準レベルに達したが、理想的レベル（概ね90点以上として試験を作成）に達した学習者は22名となった。学生による到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「新しい知識を身につけた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意識を持つことができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」においては、平均4.0とやや高かった。授業の質評価においては「授業中、自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られている。」など項目は平均4.0とやや高かった。次年度に常に学生を中心に、授業を取り組んでいかないといけないという反省点であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容妥当性においては、本科目は「専門教育科目」である。内容的には妥当であると考える。DP行動目標から見ての妥当性においては、異文化、多言語の領域の成績は上昇したことから内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物等評価基準は明らかであった」「授業中に自分の意見などを纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章等で学生の質問を受付、答える機会がつけられていた」ほぼ全員と高かったと示されていた。次年度授業の改善点としては、学生に練習させる時間を多く作らなければならないと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門応用科目の入り口に当たる本科目の位置づけから、基礎的知識の形式については概ね達成できたが、コミュニケーションの能力の面で課題を残した。この点は学生に中国語で作文などを書いてもらっている練習を通して、効果ははっきり示されているので、次年度より綿密に実施していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニケーション中国語	1	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. コミュニケーション中国語の概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことを教授する。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の44.4%を除いて、③「関心のある内容である」は77.8%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。</p> <p>2. 受講人数が少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。</p> <p>3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場を増やしていくことができるように工夫したい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は82.3点であった。標準的レベルを超えていた。</p> <p>2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の観光業を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。</p> <p>3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週6回以上の準備を6人、4回以上を3人、3回以上を4人が行っていた。また、授業の記録作成にも多くの学生が自分なりのノートを作成したという成果が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.8点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.1点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。
2. 「授業の量」については授業外の学習は半数の学生が行っていたことから、次年度に向けても具体的な課題を提示していく。
3. 「図書館やインターネット等の利用」はあまりしていないという結果がでていた。引き続き、授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. コミュニケーション中国語は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。
2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級中国語	2	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門中国語科目にあたる上級中国語は観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。上級中国語の能力の養成に重点を置く。具体的には中国語の会話、基本的文法を学習した上に基礎的な理解能力、表現能力などの総合能力の養成を目指した科目である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的なレベルは35名となった。学習による授業評価において、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」などの項目の平均4.0と高かった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP&lt;CP&lt;カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、本科目は中国語に関する能力育成科目であり、中国語通訳ガイド演習などの科目につながる科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるので、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においては「授業中に自分の意見を纏める、話し合う発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均4, 3「説明は理解しやすいものであった」の平均4, 0とやや低かったが、教科書がやや難しいことや、復習予習の時間が想定より少なかったことが原因であると思われる。次年度学生に事前に予習、復習を徹底するように促したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門基幹科目にあたる科目の位置付けから、基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、表現力、総合応用の面では課題を残した。じっくり復習時間が少なかったため、復習課題の提示などで改善を図りたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修 B	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は専門教育科目の中の国際理解科目であり、1年生から4年生まで履修できる。基礎は押さえながらも、それぞれの習熟度に応じた学びができるよう、授業の中で学生が自由に選択できる部分を設けた。また、カナダの協定校での研修が効果的に行えるよう、現地の地理、歴史、文化などについて、学内での演習の中で講義、グループ討議、発表など様々な形で取り扱った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績評価が標準的なレベルを超えており、到達度の自己評価も1名が「まあまあそうだと思う」と回答しているのを除いては、全員が全ての項目について「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、教育目標は達成されたと考える。特に自己評価の「自分なりの目標を達成した」と「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.8、中央値は5.0で、学ぼうとしていたことや新しい学びを獲得したことへの自己評価が高く、実際の成績にもそれが表れている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP,カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の異文化交流に関する科目であり、1年生から4年生まで履修できる科目である。基礎は押さえながらも、それぞれの習熟度に応じた学びができるよう、授業の中で学生が自由に選択できる部分を設け、全員が一定の成績を修め、専門分野についての学びを深めることができたという自己評価も高いことから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>② DP、行動目標からみての内容的妥当性 実際の成績及び到達度の自己評価の平均値は高く、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価について、1名の学生が「まあまあそうだと思う」と回答しているのを除いては、全員が、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね妥当であったと考える。「まあまあそうだと思う」の回答者がいたのは、全ての項目についてであり、授業の中で学生からのフィードバックをもっと取り入れる機会を持ち、理解しにくい点がある部分については臨機応変に対応していくようにしたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>海外での研修が前提にある科目であるので、学生のその国の文化や言語について学ぶことに対して意欲は高く、現地でも失敗を恐れず、困難なことがあっても何とか克服していた。学内での演習を現地での研修に生かした面は大いにあると思うが、学内での演習での課題をもう少し増やすことで、現地での研修にスムーズに入れたと思われる部分もあるので、今後検討したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米観光文化地理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では欧米の中において特に東欧の観光文化地理について授業を行なった。東欧（あるいはさらにその各国、各都市の）観光文化、社会、地理などの形成と特徴について詳細に論じた。東欧は学生達にとっては西欧と比べあまり身近でないようであるので、少しでも知ってほしいようなトピックを提供することにより、興味関心を喚起するよう心掛けた。授業にあたっては以下の工夫をした。</p> <p>①東欧については日本のメディアにもあまり取り上げられず、（特に世界史を学んでこなかった学生にとっては）あまり馴染みがないどころかイメージすらしづらいのではないかと考え、授業の前提として歴史や政治経済、社会についての概説を前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」で取り上げた西欧よりも入念に行なった。</p> <p>②2回に渡って中間レポートを課した。内容は東欧における観光事情についてであり、観光ルートの提案を示してもらうなど調べるだけでなく、考えてもらう作業も行なってもらった。2回のレポートの平均は0・未提出から95点までと履修者により大きな差が生じていた（締め切りまでに両方を提出した13名。満点100）。</p> <p>③期末試験は論述形式のものとし（持ち込み可）、一定の時間内で授業で学んだ知識を活かして論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の点数については、3名が90点以上、10名が80-89点、3名が70-79点、6名が60-69点、1名が60点未満であった（出席状況により1名定期試験不適合者が出たため全23名。満点100）。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は全24名であり、学年としては4年生が11名、3年生が10名、2年生が3名であった。この科目と対になっている前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」の受講者は21名であったため、3名の受講者増となった。学生の授業参加度は人、あるいはグループによってかなりの差が見られた。積極的な学生もいれば、寝たり、スマホで遊んだりばかりの学生もいた。後者にもなるべくわかりやすく、興味が湧くように講義を行なったが、最後まで主体的な参加は見られなかったのが残念である。授業評価アンケートの図書館の利用状況（回答者21名）によると、図書館の図書・雑誌を利用した者とCiNiiなど学術データベースの使用をした者はともに0名であった。インターネットを使用して検索などを行なった者は14名であった。この数値が物語っているように、中間レポートを2度課したが図書館の利用はされていないことがわかった。これもいまひとつ全体的な成績が芳しくなかった理由の1つに挙げるだろう。</p> <p>出席状況については、皆勤は1名であった。ほか、1回欠席が3名、2回欠席が4名など相対的に良好な人達もいれば、5回欠席3名、4回欠席3回遅刻1名など芳しくない者もいた。また、6回以上の欠席で定期試験受験不適合となってしまった学生も1名出た。既述したように、本科目ではかなり人によって積極性に対する違いが出た。単位は定期試験受験不適合者を除けば、23名中21名に付与することができた（但し、再試験の者2名を含む）。内訳は「秀」4名、「優」3名、「良」7名、「可」8名であった。「良」以下に厚みがあることがわかる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>すでに上記の4で示したように、授業参加度は人やグループによって大きな差が生じていた。授業は学生と教員双方の協力で成り立つものであるから、参加度が低かった学生にはもう少し努力をしてもらいたかった面はある。もちろん授業参加度が高かった学生は良好な成績を得ている。</p> <p>授業評価アンケートによると、「受講動機」（回答者19名）は「単位数を確保する」が15名で選択率79%、次点で「関心のある内容である」が6名で選択率32%であった。「到達度自己評価」（回答者21名）は10項目あるが、すべて3から3.6の間の評価であった（5点満点）。最高である3.6は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の3項目である。3は「職業選択の参考になった」であった。この科目は実学ではないためポイントが上がりにくいのは仕方ない。</p> <p>なお、授業アンケートの自由記述では「担当教員への意見」として1名より「ありがとうございました」と書かれており、誠実に取り組んでくれた受講生もいたことが改めて確認された。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業で取り上げた東欧は学生達にとってあまり馴染みのある地域であるとは言えないため、上述の5のように、受講に当たってはまず単位数確保という動機が先行していた。とはいえ、3割以上は「関心のある内容」ということで、そうした学生達は欧州という括りで捉えてくれたのかもしれない。授業を誠実に受講し、積極的に参加してくれた受講生もいる一方、どうしても参加度の芳しくない学生は出てしまった。</p> <p>授業内容は本来、日頃の予習・復習は欠かせないものであった。また、中間レポートも2度行っており、学修へかかる労力も少なくはなかったのではないかと考える。授業評価アンケートによると、予習時間・復習時間も最多は0で12名であった。しかし、どちらも9名は行なってくれていた。授業以外の課題の取り組みは「取り組んだ」が2名、「していない」が16名であった（全回答者21名。無回答3名）。日頃より（できれば自発的に）学修に取り組んでもらえるようさらなる工夫を考えたい。但し、ノートテイクをした者は16名（回答者21名）であり、しなかった5名を大幅に上回った。教員・学生双方の努力により、消極的な学生も巻き込んで、より白熱した授業を作っていくと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」の結果が物語っている。5項目あるが、すべて3.3から3.9の間であった（最高点5）。最高点の3.9は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」である。評価基準を明確にし、毎回フィードバックをしていたことがこの数値からも示された。一方、最低点の3.3は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」である。どうしても積極的に意見を言えない層は教員に「あてられなかった」と感じたのかもしれない。また総じて、知的好奇心が充足してもらったとは言えない状況であることは課題である。今後とも継続してなるべく意見の出やすい雰囲気作りや視覚的にわかりやすいよう写真等を増やすといった努力をしたい。一部の者だけにわかりやすいだけでなく、学修に関心のない学生にも振り向いてもらえるような説明、話題作りにも真摯に取り組んでいきたいと考える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジア観光文化地理 II	2	後期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 受講動機をみると「関心のある内容である」51.0%、「単位数を確保する」49.0%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は88.2点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、技能表現に関する問題は100%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、5.8%、21.6%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から知識理解、技能表現に関する達成度が割に高いレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は「アジア観光文化地理Ⅱ」であるが、「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が100%であり、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と思っている学生数が98.0%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「海外研修」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化地理Ⅰ」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。</p> <p>また、学生の知識理解、技能表現を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリアデザイン論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、学生の将来の就職活動を見据え、さまざま業種や職種を学ぶことができるように2年次に配当された必修科目である。必修科目は文字通り、卒業のために必要不可欠な科目であることから、一般的に、受動的な態度で学生が授業に臨む傾向が強い。本科目においてもその例に漏れず、アンケート項目の受講動機において、「関心がある」と答えた学生が3割程度にとどまっている。したがって、学生の授業に対する能動的態度を引き出すために、授業においては以下の3点を工夫した。①授業前半で各業界で活躍する社会人（主として女性）を招き、業界の情勢や職種の内容について詳しく説明して頂き、後半で質疑応答の場を設けた。②学生には、さまざまな業界を広く知って頂くため、航空業界、旅行業界、ホテル宿泊業界など、およそ本学科の学生の多くが志望している業界にとどまらず、広告業界、金融業界、行政機関など幅広く登壇者を招くことにした。③学生には授業後に授業の感想を含めたミニレポートを書いて提出して頂くことで、授業内容の振り返りと2年後の就職活動のための準備をおこなっていただくこととした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生アンケート中の「授業の質」という項目において（1）テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった。（2）期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった。（3）説明は理解しやすいものであった。（4）口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、の4項目についてはすべて平均点が4.5と高く、（5）授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、という項目については平均点が4.4とやや低いものの4.0以上を達成していること、また、学生の授業評価アンケートの自由記述を見ても、「とてもためになる授業だった」などのコメントをしている学生が多いことから、総じて教育目標は達成されたと考えられる。今後の課題としては、上記（4）のアンケート項目の平均点がより高くなるように、授業中に話し合う、発表するなどの学生が参加する機会をより積極的に設けたいと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目はDP、CPおよびカリキュラムマップにおいて、キャリア教育科目に位置付けられていることから、学生が各業界の情勢や職種の内容を学ぶ機会を設けたこのような授業の在り方は妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

3. で記述したように本授業においてはできるだけさまざまな業界から登壇者を招き、業界の情勢や職種の内容などをお話し頂くことで学生へ学びの機会を設けたのであるが、業界によっては学生があまり関心を示さないものもあった。したがって、今後の授業の改善点としては、できるだけ学生の関心の多い業界を中心に選ぶように心がけたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本授業においては、授業中において質疑応答の場を設けるなど学生の授業参加を積極的に図ったものの、その点があまり学生に理解していただけていないように思える。したがって、今後の課題としては、アンケート項目中の「授業の質」の評価における上記(4)の平均点が上がるように、質疑応答が活発におこなわれるような工夫を施したいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム演習	1	後期	必修	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は本学科の専門教育科目における演習科目として、1年次後期に配当されている必修科目である。観光学を4年間広く学ぶ上で、最初に配当されている科目であるものの、学生授業アンケートの受講動機をみると、「必修科目であるから」と答えた学生が多い。そこで、本授業の重要性を再確認していただくためにも、「観光学とは何か」について、常に考えていけるような授業構成にしている。特に最近急増するインバウンド客の動向に注目しながら、各都道府県の知り得るべき観光資源に言及するなど丁寧な授業を心がけている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DPの平均値が3.4～3.9をマークしていること、また授業の質の評価においても、(1) テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった、(3) 説明は理解しやすいものであった、については平均点が4.0となっているものの、(4) 授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、(5) 口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目については平均点が3.7であったことが根拠として挙げられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

本科目はDP、CPおよびカリキュラムマップにおいて専門教育科目の必修科目に位置付けられており、将来、観光業界に携わる人材を送り出す上で観光学全般に関する基礎的な知識を学ぶ機会を設けているため、内容的妥当性があると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

上記、3で記述したように本科目は専門教育科目における必修科目に位置付けられており、1年次後期におこなう演習科目である。しかし、学生のアンケート結果からは「どのように勉強していいかわからない」という意見があったことから、今後は授業の目標をより明確にし、学習方法については、より細かく伝えていく必要性を感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

全体を通して教育目標はやや達成されたと言えるものの、本科目は学習方法を細かく、かつ丁寧に伝えるなどの工夫が必要と考える。次年度以降はこの点を考慮し、抜本的な授業計画の改善を図る予定である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム演習	1	後期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機をみると「必修科目である」96.9%、「単位数を確保する」15.6%、「関心のある内容である」12.5%となっているが、もっと学生の関心を引き出し、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。</p> <p>②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。</p> <p>③演習の7回目に小テスト（レポート作成と発表）を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85.1点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的なレベルに達したと思われる。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては、100%、思考判断に関しては、100%、意欲関心に関しては、100%、態度に関しては、100%、技能表現に関する問題も100%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。</p> <p>図書館の利用に関しては、12.5%で、インターネットの利用に関しては、18.7%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「ツーリズム演習」となっており、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛けるので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、評価が良かったが、「期間内行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と思っている学生数が100%であり、「説明は理解しやすいものであった」と思っている学生数が96.9%であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と思っている学生数が87.5%であった。次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「ツーリズム演習」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する力を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域活性化演習	2	後期	必修	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次後期に配当されている専門教育科目における演習科目である。本科目名にあるように「地域活性化」という言葉は実に古くて新しい言葉であり、また往々にして多義的に使われることが多い。したがって、授業計画においては、学生が地域活性化を学ぶ上で真に必要なことは何か、またどのような授業構成が最も教育効果があるかを熟慮した。具体的には「企業もしくは団体と学生がコラボして、一定の成果を生み出すこと」を目標とし、その過程においてさまざまな経験をするをとりわけ重視した。ただ、学生アンケート中の受講動機については、「関心のある科目だから」と答えた学生が2割程度しかおらず、この点は「地域活性化」の意義を授業開始時においてより丁寧に説明していく必要があると感じた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DPの平均値が4.1～4.4をマークしていること、また授業の質の評価においても、(1) テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった、(2) 期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった、については平均点が4.2、(3) 説明は理解しやすいものであった、(5) 口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目については平均点が4.3であったことが根拠として挙げられる。(4) 授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた、については平均点が4.4をマークしたことが根拠として挙げられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP、CPおよびカリキュラムマップにおいて専門教育科目の必修科目に位置付けられており、地域活性化に携わる人材を送り出す上で必要不可欠な経験を学ぶ機会を設けているため、内容的妥当性があると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は新カリキュラムとなって初めての授業であったため、授業の進行においていささか困難が生じた。具体的には企業・団体とコラボするといっても、その事前の準備は後期になってからでは遅い。したがって、この点が本授業において反省し、今後改善すべき点であると言える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本授業は上記6.でも記述した通り、新カリキュラムとなって最初の授業であるにもかかわらず、最終的に成果発表会を実施できたことはとても良かったと感じている。また、学生も授業以外の時間を企業訪問などに費やすことでよい経験を得ることができたのではないかと考える。ただし、上記でも触れたように前期中から企業への打診を図ることが必要不可欠である。</p>
-------------------------------	--